

令和 7 年度事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

公益財団法人 **オイスカ**

目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	8
3. 人材育成事業	1 3
4. 啓発普及事業	3 0
5. 収益事業	4 6
6. 組織の運営	4 7

1. 海外開発協力事業

総 括

不透明感の強まる世界情勢の中、物価の高騰、自然災害、気候変動などにより国際協力のニーズの高まりを感じているが、限られた財源をバランスよく配分していくことは困難である。従来の考え方ではカバーしきれない諸課題に対し、いかに効率的に取り組むかが問われている。そうした中、各分野で厳選した活動が行われた。

自然再生・保全活動では、自然の力を生かした社会課題解決（EBS）として、各国で住民の生計向上を組み入れた事業を推進しているが、地球温暖化が原因とみられる想像を超えた気候変動への対応に苦慮しつつも海岸地域でのマングローブ保全を中心とした事業を継続した。また、ウズベキスタンにおける沙漠緑化では、水の確保の困難さから苗木生産が計画通り進まなかったものの、代替生計向上手段としてサツマイモ栽培にも挑戦しつつ緑化活動を推進にした。タイにおいては、北部山岳地帯を中心に EBS を導入し、幸い政府や支援機関からの助成を受け着実に自然環境の回復と啓発活動を継続的に実施できた。

海外人材育成では、カウンターパートである相手国政府との協約に基づき、農業や環境に関する研修活動がアジア太平洋各地で続けられ、各国でリーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めている。共同生活を主体とした合宿形式の研修スタイルはオイスカ特有のもので、より強いきずなで結ばれた研修生の OBOG が各方面で活躍している。また、従来の農業を中心とした訪日研修に加え、近年急速にニーズが高まっている技能実習や高度な技能を持つ人材の日本招聘の拠点としての機能も研修センターや現地組織が果たしている。

持続可能な産業の開発・促進では、フィリピンでの養蚕普及、拡大による地域住民の生活向上支援事業（外務省・日本 NGO 連携無償資金協力）を実施し、現地からの要望が強くフィリピン政府からも期待の大きい養蚕業の全国への普及を後押しすることとなった。また、インドでのガンジス川浄化に資する生計向上プロジェクトでは、炭窯など基盤整備が完了し竹炭を活用した土壌改良で農産物の質の向上を図る取り組みが継続して行われ、現地住民による竹炭生産とそれを活用した農業、生産物の流通に関するセミナーなど、普及に寄与した。

緊急支援として実施した昨年 3 月のミャンマー地震被災地支援も多くの方の募金へのご協力と現地スタッフの献身的な活動で大きな成果を上げた。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

1. プロジェクトの実施成果

<自然再生・保全活動>

近年、豪雨や台風などの自然災害が頻発化、甚大化している中、Eco-DRR（Ecosystem-based Disaster Risk Reduction／森林などの生態系を活用した防災・減災）に主眼を置いた植林の必要性が高まっている。これらへの対応に加え、想定を超える自然の脅威に対して、防波堤や消波ブロックなどのグレーインフラの力も借りながらの保全活動も実施したが、逆に強固な構築物が破壊されるなどの被害も出始めている。

また、これまでの植林地の維持管理作業も継続して実施したほか、地域住民が森からの恩恵を受けながら、その森を長く守っていけるよう、生計向上につながる住民向けの取り組みにも注力した。マングローブ、乾燥地緑化、山間地での植林の 3 つの事例を紹介する。

1. マングローブ保全プロジェクト

令和 7 年度は、引き続きインドネシア、タイ、フィリピン、フィジー、バングラデシュの 5 か国で計 109 ヘクタール、55 万 3 千本の新規植林および 4 万 4 千本の補植を実施。

マングローブ植林は、元々波や風の影響を受けやすい環境下で行われるため、植林する場

所や時期の選定や方法など、適切な判断が求められるが、近年は予測できない気候の変化への対応に苦慮している。

インドネシアでは、植栽から 8~10 年程の大きくなったマングローブが観光資源として活用されていたエリアでも、海岸の浸食により海に面したマングローブが次々に倒伏するようなサイトが増えている。逆に土壌の堆積が急激に進んだことで根元が埋まり、枯死する場所もあり、海岸でのマングローブの新規植林を見送り、内陸にある養魚池の周辺もしくは養魚池に水を引くための水路の土手などへの植林を進めている。また、マングローブではなく、海岸防風林としての機能を発揮するモクマオウの植林に切り替えるといった工夫をしながら沿岸地域の保全を継続している。

各サイトでは、水産高校で学ぶ高校生のインターンシップの受け入れや大学生らの研究フィールドとしての活用といった事例も増えており、次世代育成の場としての活用にも期待が寄せられている。

またフィリピンやタイ、フィジーでも日本人の学生やボランティアの受け入れなどがコロナ禍前のように実施できるようになってきている。

2. ウズベキスタン沙漠化防止プロジェクト

今年度は、協働するカラカルパクスタン農業大学と、林業局から借りたコングラートの育苗場でサクサウールの育苗に取り組んできたが、水確保の難しさなどから植林に適する苗の出荷ができなかった。次年度は、条件の良い土地を持つ農家への栽培委託などに切り替え、品質の良い苗の確保に向けて動いていく予定。

住民の短期的な生計向上を目指したサツマイモ栽培については、9 つの農家に苗を配り、栽培を進めてきたが、ジャガイモよりも乾燥に強く育てやすいことが実証でき、栽培を希望する農家が増えてきている。カラカルパクスタン農業大学内でもサツマイモの試食販売会を行うなど、普及に努めており、来年度以降も大学内で苗の生産を行いながら栽培農家をさらに広げられるよう取り組んでいく。

一方で、長期的な生計向上を目指したニクジュヨウの栽培については、技術の普及は広がりつつあるものの、収穫物が土地所有者である国に帰属するため、地域住民の直接的な収入につながらないという課題に直面している。国連開発計画(UNDP)などと連携して、特区を設け、ニクジュヨウ栽培が住民に直接裨益するものになるよう模索を続けている。

3. EBS プロジェクト (タイ)

タイでは EBS (Eco-System Based Solution、自然のシステムを活用して社会課題の解決を目指す) のコンセプトの下、植林による環境保全・再生に加え住民の生計向上やコミュニティの強化による地域開発を目的としたプロジェクトをそのまま「EBS プロジェクト」と呼んで、タイ各地、特にタイ北部山岳地帯を中心に実施している。チェンライ県マイチャルーン村のプロジェクトでは、水源林の減少によって川の水がなくなり農業が難しくなってしまった村の環境を再生するため、植林と啓発活動を中心に活動を実施。開始当初は予算ゼロの状態クラウドファンディングを実施することでなんとか活動をスタートさせたが、広報や関係機関への働きかけで徐々に支援者を増やしていき、2025 年度は COSMO エコ基金、九州電力労働組合、等の企業・団体からの支援を得て 6.4 ヘクタールの植林を実施。加えてタイ王国外務省や在日タイ大使館からの支援も得ることができ、2026 年 8 月には関係者を招待して大規模な植林イベントも実施する予定。今後も引き続き活動を継続するとともに、現場のニーズに合わせて他地域での活動も拡大していく。

<海外人材育成>

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。限られた資源の中、現地のニーズとのマッチングで幅広い人材を育て、地域に輩出して

きたインドネシア・中部ジャワ州での活動についてここでは紹介する。

・カラングニアル研修センター（インドネシア中部ジャワ）

1988 年に開設されたカラングニアル研修センターは、0.5ha ほどの小さな土地しか持たず、センターに隣接した畑も小さなものしかないものの、多様な農業のあり方を模索しながら農業研修に取り組んでいる。

例えば、ウォーターサーバーの大型ボトルを再利用して鉢を作って野菜や果物を栽培したり、アクアポニックス（魚を育てた水を活用して、サニーレタスなどの葉物野菜を水耕栽培する）に取り組むなど、小規模な農地しか持たない、もしくは農地を持たない研修生でも研修終了後、手軽に取り組めるような工夫を凝らしている。

インドネシアでも日本と同様に若者の農業離れが進む中、研修生の確保に課題を抱えているものの、農業を学ぶ高校生や大学生の短期研修やインターンシップのニーズがあり、受け入れを続けている。集団生活をしながらの研修は、早朝の点呼や規律訓練といった若者には厳しいと捉えられる面があるものの、日本文化体験のようなオイスカならではのプログラムもあり、研修生の満足度は高い。

また、同センターはジャワ島北岸などの 7 つの県で進めているマングローブ植林プロジェクトの推進に欠かせないコーディネーターらを育ててきており、農業人材の育成だけではない、広い意味での人材育成の拠点として重要な役割を果たしている。

＜持続可能な産業の開発／促進活動＞

途上国においても生活様式が多様化する中、生計向上への様々な選択肢を提供し、環境と調和しながら進める持続可能な産業の育成は、世界中でニーズが高まっている。特別な技術を必要とせず、ある程度の勤勉さをもって実践すれば自ずと生活していけるような土から離れない産業を現地の方々に紹介、導入し取り組んでもらい、その結果として自然環境も守られるよう実践している。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

1. 北部ルソン及び北部ミンダナオにおける養蚕普及拡大による地域住民の生活向上支援事業（フィリピン）

本プロジェクトは外務省 NGO 連携無償資金協力の支援の下、フィリピン繊維研究所 (PTRI) からの協力要請を受けて前年度事業と同様、ミンダナオ島の東ミサミス州、ルソン島のベンゲット州、ヌエバビスカヤ州における養蚕普及及び拡大による国内シルク産業の発展を目指している。シルクに欠かせない良質の繭を生産するための農家育成は最も重要な活動の一つでバゴ研修センターでの養蚕短期研修、そして北部ルソンでの PTRI によるセミナー・トライアルは、その目的をほぼ達成できた。農家の中には研修後地元に戻り養蚕を実践しながら SNS 等を使い指導員との直接のやり取りを通じて的確な助言を受けて、病蚕問題等の解決を図った事例も報告されており研修参加による成果といえる。

東ミサミス州での Region X の農業局長による壮蚕所の建築支援は、本事業終了後の持続発展性を期待する上で自治体による支援体制が築かれているケースとして注目していきたい。

北部ルソン島のベンゲット州は幸い養蚕に適した地域であることから養蚕への期待は大きいものの、山岳地帯という地形から桑園面積の確保に限界もあるなか、過去に養蚕を経験した農家が、もう一度養蚕に挑戦したいという動きも見られる。そうした農家への期待と同時に新たな支援体制を築いていくことも必要で、今後の検討すべき課題でもある。

日本人専門家派遣実施に伴いバゴ研修センターの指導員を同道し、セミナーや各農家での指導を行ったところ、指導員の実践に基づいた分かりやすい説明と指導が、農家はじめ PTRI 指導員から高い評価を得たことは予想以上の成果であった。

ヌエバビスカヤ州では研修生 O B O G 夫妻が勤務する大学及び高校で行っている養蚕普及活動が徐々に学生たちを通じて保護者に浸透してきており、最近では近隣の村からの要請を受けている状況である。夫妻は自ら現地に足を運びセミナー等を実施するなどして養

蚕普及に努力しているが、今後同州における2人の役割は益々大きくなっていくものと思われる。

養蚕は蚕を扱うことから、細心の注意を必要とする。そのためには農家の経験とノウハウが必須であることは言うまでもないが、同時にそのための経験豊富な指導員やモデル農家の存在は大きい。そうした人材育成や指導体制を築いていくためにもバゴ研修センターとの連携は重要で、今後本プロジェクトを推進していく上でもセンターの役割は大きい。

2. ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（インド）

JICA 草の根技術協力事業として実施している「ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（草の根パートナー型）」は3年目を迎え、自然資源活用としての竹炭づくりや活用方法の技術移転が進んだことに加え、徐々に事業の浸透と広がりが見えてきた。事業対象地であるインドのウッタール・プラデシュ州バラナシに位置するガンジス河流域の3村すべてにおいて炭窯の設置を完了させ、炭窯を使った竹炭づくりの指導を実施したことで、現地住民による炭窯の運用・管理が少しずつできるようになった。

さらに、つくった竹炭の農業への活用も継続的に行い、協力農家が取り組んでいる試験栽培の経過観察からは、竹炭を撒いていない畑と比較して、撒いた畑の作物の収量が多い、根の張りが良いといった声が聞かれる例も出てきた。農家同士の意見交換や、各村の活動推進役であるコーディネーターや北インドオイスカ総局のスタッフによる地道な説明、専門家による実演や助言などを通して、徐々に理解が浸透し、令和7年度末時点では22軒の農家が試験栽培に取り組むようになった。

竹炭を活用して育てた作物の生産は、まだまだ一定量を確保できるほどには達しないものの、今後の販路開拓や販売戦略を現地の農家自身が担うことを見据えて、各村の農家に対する新たな販路の提示や基本的なマーケティングの考え方のセミナーも実施した。より関心を深め、意欲的に活動に取り組む農家の姿も見られるようになった。

今後は、さらに取り組みを拡大しながら、活動の推進役を担う協力農家の育成に向けた研修などを行い、事業の定着、自立的な運用につなげていく。

<緊急支援>

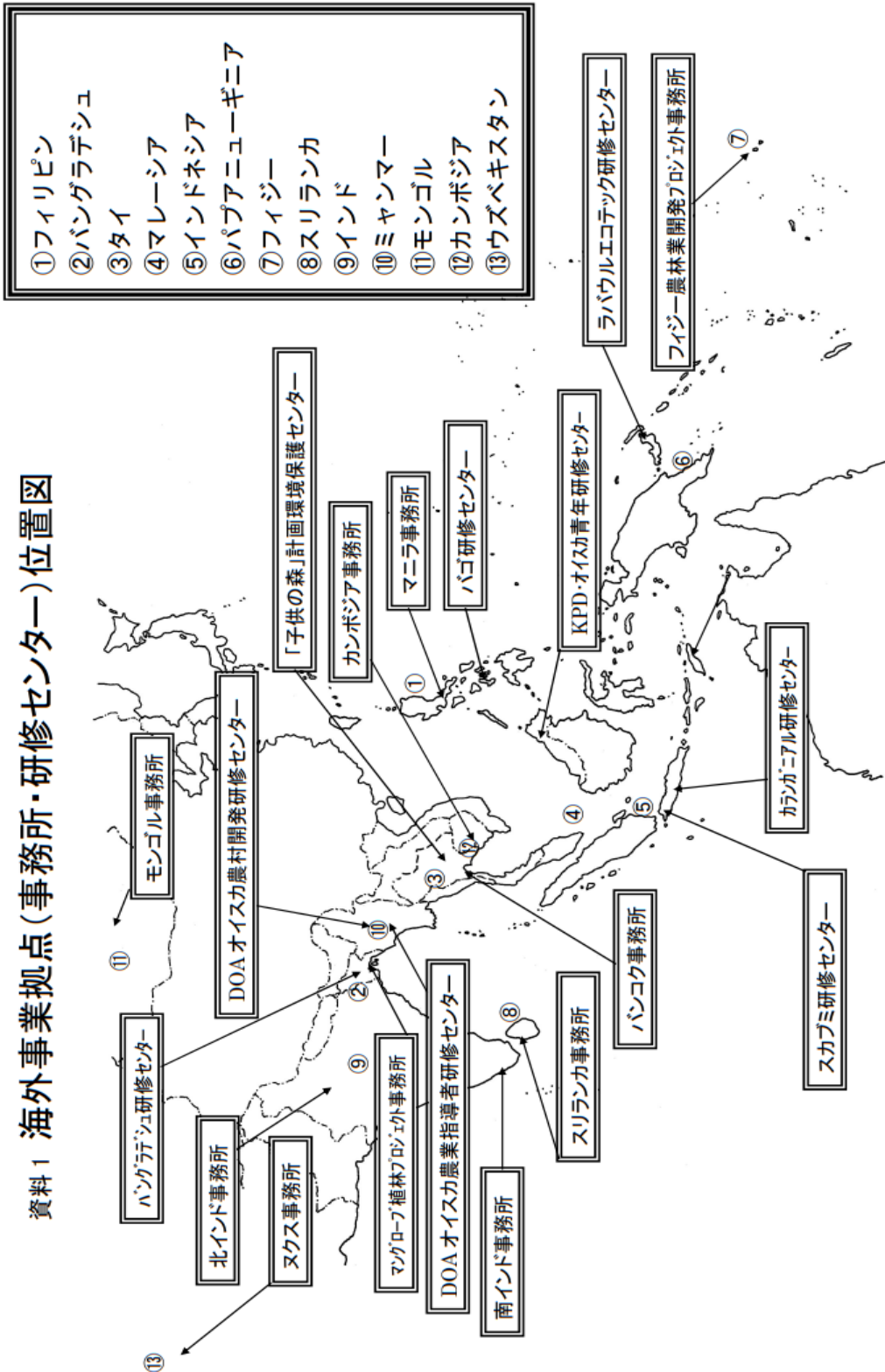
ミャンマー地震緊急支援事業

2025年3月に発生した大地震により、ミャンマー中部は甚大な被害を受けた。この地震により、ミャンマー国内にある2か所の研修センターのうち1か所では建物の一部が崩落する被害が発生したが、幸いにも現地スタッフに人的被害はなかった。地震発生直後から、研修センターのスタッフは自主的に近隣被災者への食料や飲料水の緊急支援を開始し、その後、日本のオイスカ本部へ支援要請が寄せられた。これを受け、オイスカ本部ではミャンマー地震緊急支援募金を実施し、最終的に1,200万円を超える募金が集まった。集まった募金をもとに、食料、飲料水、生活用品等の緊急支援物資の配布や、避難生活を送る被災者への生活支援を実施した。

また、多くの学校施設が被害を受けたことから、水タンクが破損した学校への代替タンク供与や、壁の一部が倒壊した保育園の修繕支援も実施した。さらに、被害の大きかった農村地域では、農業インフラの損壊や物価高騰により生活が深刻な影響を受けていたため、生計回復支援として、研修センターで栽培した稲作の種もみや農業資材の提供、農業研修等を実施した。これらの支援を通じて、地域農家は再び稲作を開始し、食料生産や収入回復に向けた取り組みを進めている。

現在も被災地では継続的な支援が必要とされており、オイスカでは今後も現地チームや地域住民と連携しながら、生計回復支援に加え、教育や基礎インフラ分野における支援活動を継続していく。

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

駐在員

	氏 名	担当業務
--	-----	------

フィリピン

1	萬 代 保 男	運営管理
2	渡 辺 重 美	運営管理

タイ

3	春 日 智 実	運営管理
---	---------	------

フィジー

4	ジョセリン マトウソハイ	調整・渉外
---	--------------	-------

調整員（本邦を拠点とし出張派遣）

	氏 名	担当業務
--	-----	------

ウズベキスタン

5	富 樫 智	運営管理
---	-------	------

バングラデシュ

6	小 杉 辰 雄	運営管理
---	---------	------

パプアニューギニア

7	荏 原 美知勝	農業技術指導・調整
---	---------	-----------

インドネシア

8	中 垣 豊	運営管理
9	中 垣 ア ダ	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国 名	センター・事務所	現地 スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	7	－
2		マングローブ植林プロジェクト事務所(チッタゴン)	4	－
1	インド	南インド事務所	11	－
2		北インド事務所	8	－
1	インドネシア	スカブミ研修センター	38	84
2		カラングニアル研修センター	7	19
3		駐在員事務所	2	－
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	21	37
1	モンゴル	モンゴル事務所	5	－
1	ミャンマー	DOA オイスカ農村開発研修センター	17	0
2		DOA オイスカ農業指導者研修センター	17	12
1	フィリピン	マニラ事務所	5	－
2		バゴ研修センター	16	7
3		スエバビスカヤ植林プロジェクト	1	－
4		パラワン研修センター	2	0
5		アブラ農林業研修センター	4	20
6		スエバエシハ研修センター	2	16
1	スリランカ	スリランカ事務所	4	2
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト(チェンライ)	3	－
2		マングローブ・プロジェクト(ラノー)	2	－
3		「子供の森」計画環境保護センター(スリン)	1	－
4		「子供の森」計画(コンケン)	1	－
5		バンコク事務所	4	－
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	－
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	7	20
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	15	51
1	ウズベキスタン	スクスオフィス(カラカルパクスタン農業大学内)	7	－
合 計			214	268

*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の達成期限である2030年まで残り5年となる中、生物多様性の損失を食い止め、回復へと転じさせる「ネイチャーポジティブ」に向けた具体的な行動が、これまで以上に強く求められている。こうした中、国際社会では取り組みのさらなる加速が求められており、「子供の森」計画（以下、CFP）は、子どもたちや地域住民が主体となった活動を通じて、その実践を地域レベルで推進している。

2025年度の活動においては、世界的な物価高騰や不安定な社会情勢が影を落とす中、気候変動に伴う自然災害の影響も顕著に表れた一年となった。スリランカを襲ったサイクロンやインドネシアでの水害など、世界各地で甚大な自然災害が相次ぎ、子どもたちの生活や教育環境を脅かした。CFPでは、被災校への緊急支援も実施するなど、活動に関わる子どもたちの生活や学びの場を支えながら、自然に触れ、環境保全に関わる機会を維持・継続することに注力した。こうした気候変動や社会情勢の変化など、多くの課題が広がる中だからこそ、持続可能な未来に向けて主体的に行動できる人材を育む活動の重要性は、これまで以上に高まっている。そうした中、CFPの活動は新たな地域へと広がりを見せており、2025年度にはアフリカのボツワナおよびタンザニアで新たに活動を開始した。さらに86校が加わり、1991年の事業開始以来の累計参加校数は5,756校となった。

緑化活動においては、15の国と地域の403校が参加した。水資源の有効活用や土地に適した樹種の選定といった工夫を重ねることで、苗木の生存率向上と持続的な緑化の推進を図った。また、育てた森を活用した環境教育や、葉や実を活用した製品づくりなどの取り組みも活発化しており、豊かに育った森は、緑化だけでなく、地域に恵みや学びの機会をもたらす存在となっている。環境教育の分野では、敷地の限られた学校や家庭でも実践可能な菜園活動やリサイクル活動が、多くの活動国で活発さを増している。加えて、活動内容も多様化しており、地域資源を活用した新たな取り組みや創意工夫を生かした実践も広がっている。

こうした活動を支える担い手の育成と連携強化を目的に、国際コーディネーター研修をタイにて開催。アジア・太平洋地域の8カ国から集まったスタッフが、環境教育の手法や森林資源の活用を通じたコミュニティ開発について学ぶとともに、国を越えたネットワークの強化を図った。さらに7月には、フィリピンとインドネシアから子ども親善大使を招聘した。各地で開催した報告会では、子どもたち自身が活動の成果や現地の状況を直接伝え、支援者との相互理解を深める貴重な機会となった。

支援者に向けては、各国の活動レポートやニュースレター、カレンダー等の発行を通じて、子どもたちの取り組みや成果を届け、活動への理解と関心を深めていただけるよう努めた。本年度は、外部組織との協力を通じて新たな広報チャネルづくりを模索した一年でもあり、認知度向上に向けた試行錯誤を重ねた。認知拡大に向けては今後さらなる工夫が求められるものの、2025年度に寄せられた支援口数は5,761口、寄附金総額は50,736,386円となり、事業の推進を支えている。活動の実施にあたっては、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイを重点地域とし、事業を展開した。

2. 各プロジェクト実施成果

① 環境や社会の変化に向き合い、継続する森づくり

2025年度は、15の国と地域における403校と22のコミュニティで緑化活動を展開した。世界各地で干ばつや豪雨、洪水など気候変動の影響が深刻化する中、各地では植林時期の調整や在来種・果樹の選定、適切な補植など、地域環境に応じた工夫を重ねながら苗木の定着率向上に取り組んだ。乾燥の厳しい地域では、助成金も活用しながら雨水タンクや簡易灌水設備を導入し、水資源を確保しながら緑化活動を継続している。

また、学校敷地内で十分な植林スペースを確保することが難しい地域では、家庭や地域へ活動を広げる動きも進んでいる。地域住民や寺院、行政機関などと協力しながら学校外での植林活動を展開する事例も増えており、地域ぐるみで木を育てる取り組みへと発展しつつある。情勢不安の影響により公立学校の再開が難しいミャンマー・エサジョ郡では、家庭や地域での植林活動に加え、学校に通えない子どもたちが学ぶ僧院学校において活動を展開した。限られた環境の中でも、子どもたちが自然と関わりながら学べる機会を維持している。一方で、比較的治安が安定し学校の開校が続いているピョーボエ郡では、公益社団法人国土緑化推進機構「緑の募金」の助成を受け、新たな事業として「ミャンマー中央乾燥地域の緑化と水環境改善」を開始した。年間降雨量約500mmと厳しい気候条件に加え、森林減少や水不足が進む地域において、学校を拠点とした植林活動や環境教育を展開するとともに、雨水貯蔵設備の設置を通じて水環境の改善にも取り組んでいる。初年度は15校で植林および環境教育を実施し、延べ約3,000人が参加した。

さらに、生物多様性の保全に向けた理解と行動を広げる日である5月22日の「国際生物多様性の日」に合わせて、国連生物多様性条約事務局（SCBD）との連携のもとグリーンウェイブ活動を継続して推進した。14の国と地域から287の学校・団体、合計8,391名が参加し、郷土樹種の植樹や環境学習、生物多様性に関する啓発活動などを行った。各地の自然や文化に根差した活動を通じて、生物多様性保全への理解を深める機会となっている。

また、2025年度には、タンザニアおよびボツワナにおいても試験的にCFP活動を開始した。JICA海外協力隊員として現地で活動する元オイスカCFPインターンが中心となり、これまでの活動経験やつながりを生かしながら、学校での植樹活動や環境学習を実施した。インドネシアでCFPに参加する子どもたちからのメッセージ動画を共有するなど、国を越えた交流も生まれ、子どもたちが自然を守る大切さや木を育てる楽しさを学ぶ機会となった。CFPで学んだ人材が各地で活動を展開し、取り組みの広がりにもつながっている。これにより、1991年の事業開始以来の累計参加国・地域数は39となった。

② 学びを実践につなげる環境教育

2025年度、CFPに参加する学校では、植林活動に加え、子どもたちが主体的に学び、実践する環境教育活動が各地で活発に展開された。特にインドネシアでは、子どもたちの主体的な学びを重視したカリキュラムとして政府が推進するムルデカ・カリキュラムとの親和性もあり、学校菜園やリサイクル活動、森林資源の活用などを通じて、教室の外で実践的に学ぶ機会としてCFP活動が活用されている。

学校菜園活動は、環境教育の場であると同時に、物価高騰が続く地域において、子どもたちの栄養改善や家庭の負担軽減にもつながっている。落ち葉や生ごみなど地域にある資源を活用した堆肥づくりや、有機農業の実践を通じて、持続可能な農業への理解を深めながら、収穫した野菜を給食として提供したり、販売する学校も増えている。

また、育てた森の活用も各地で広がりを見せている。果樹やハーブ、樹木の葉などを活用したお茶や菓子づくり、養蜂活動など、地域資源を生かした取り組みが進められており、加工・販売を通じて活動資金の一部を生み出す事例も見られるようになった。こうした活動は、単なる収入源にとどまらず、子どもたちや教員の活動意欲を高め、継続的な取り組みを支える要素ともなっている。また、地域資源を活用した特色ある教育活動として、学校の魅力向上や地域での関心・評価にもつながっている。木を植える活動が、環境改善にとどまらず、学びと暮らしの両面に実りをもたらしている。

廃棄物管理に関する活動も各地で活発化している。タイ・アユタヤでは、都市近郊で大規模な植林地の確保が難しいことから、資源を生かした環境教育に注力している。家庭や学校から出る資源ごみを回収・販売する「ごみ銀行」の運営や、ペットボトルキャップを活用した小物づくりなどが学校の特色づくりにもつながっており、若い教員の積極的な参加のもと、活動の輪が広がっている。また、インドネシアでは、研修センターが地域のリサイクル活動の拠点としての役割も担い始めており、ごみの分別やアップサイクル活動を通じて、周辺学校への啓発にもつながっている。

一方で、活動の継続には、水資源の不足や燃料・資材価格の高騰、課外授業の時間確保や現地指導者の負担増加など、さまざまな課題も残されている。しかし、限られた資源の中でも地域の実情に応じた工夫を重ねながら、地域の暮らしに根差した環境教育は豊かな広がりを見せている。

③ 活動を支える担い手の育成

CFPの活動を継続・発展させていくためには、各地で活動を支えるコーディネーターや教員の存在が欠かせない。一方で、多くの活動国では、活動の広がりに対して担い手の不足が課題となっており、若手人材の育成や世代交代が急務となっている。2025年度は、インドネシア、フィリピンなど複数国でコーディネーターや教員向けの研修会を実施し、環境教育の進め方や活動事例の共有、学校で実践しやすいプログラムの紹介などを行った。教員自身が主体的に活動を企画・実践できるよう支援することで、各地域における活動の定着と発展を目指している。

また、2026年2月12日から17日にかけて、タイ北部チェンライ県において国際コーディネーター研修を開催。アジア・太平洋地域9カ国（インドネシア、スリランカ、タイ、パプアニューギニア、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、日本）から20名が参加し、森林資源を活用した地域づくりや、五感を使って自然を学ぶ環境教育手法などについて実践的に学んだ。現地視察では、養蜂や山菜栽培など、地域住民が主体的に森林資源を活用しながら収益につなげている事例から、地域の人々が連携して、いきいきと環境保全と暮らしを両立させている仕組みを学び、自国で応用するヒントを得た。また、五感を使って自然への理解を深める森歩きや、自然の楽しさを学ぶネイチャーゲームなどの手法も実践的に学び、参加者からは「現場で活用できる手法を多く得られた」、「CFPに惜しみなく情熱を注ぐ皆の姿勢に感銘を受けた。自分もさらに頑張りたい」といった感想が寄せられた。プログラムを通じた学びや仲間からの刺激を受け、各国で活動がさらに広がることが期待される。

さらに、日本国内のオイスカ研修センターで学ぶ研修生に対しても、CFP活動に関する講義や実習を継続して実施している。将来的に各国で活動を担う人材の育成につなげながら、次世代のコーディネーター育成にも取り組んでいる。

④子どもたちによる発信と支援の輪づくり

「子供の森」計画では、活動への理解と支援の輪を広げるための発信にも継続して力を入れた。7月7日～15日にはフィリピンおよびインドネシアから子ども親善大使計7名を招聘し、香川、愛媛、大阪にて学校交流（香川県立高松北中学校、綾川町立陶小学校、豊能町立吉川小学校）や報告会を実施した。活動地域の子どもたち自身が、日々の取り組みや地域の課題、活動を通じて感じた変化について直接発信することで、参加者に現場の様子や活動の意義を伝える貴重な機会となった。帰国後も親善大使が地元の学校や地域で報告を行い、現地ではリーダー的な役割を担いながら、意欲を持って継続的に活動に参加している。

広報面では、西日本旅客鉄道株式会社の協力により、「WESTERポイント」を活用した寄付の呼びかけを強化するとともに、京阪神を中心とした主要駅でのポスター掲示やパンフレット設置を年3回実施し、活動の認知向上を図った。また、支援の利便性向上を目的として決済システムの一部刷新も行うなど、現代の寄付ニーズに対応した基盤整備を進めている。

さらに、支援企業や団体によるボランティアツアーの受け入れも継続的に実施した。参加者は植林活動や学校訪問、子どもたちとの交流を通じて現場への理解を深めており、活動への共感や継続的な支援につながっている。こうした直接的な交流は、活動地域の子どもたちやコーディネーターにとっても大きな励みとなっており、国を越えたつながりを育む機会となっている。一方で、継続的な認知拡大に向けては引き続き課題も残されているが、子どもたち自身による発信や支援者との交流を通じて、活動への理解と共感の輪を広げる取り組みを進めている。



コミュニティでの植林活動
（インドネシア・西ジャワ州
チチェメト小学校）



ごみ銀行の取り組みでは、集めた資源ごみを計量・換金。貯まったお金は文房具やおやつ代として活用されている
（タイ・アユタヤ県ワットパーチャー学校）

3. 2025 年度「子供の森」計画 国別植林実績

累計実績：39 の国と地域の 5,756校で実施

No.	活動実施国名	2025 年度		1991 年～ 累積		参加校数 総計	2025年 新規 校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	1,050	1.40	93,588	74.51	242	2
2	カンボジア	2,510	4.42	22,820	31.07	91	8
3	フィジー	12,082	3.38	836,440	607.38	72	1
4	インド	3,200	1.20	1,794,439	1,247.77	2,184	1
5	インドネシア	25,830	14.88	567,644	637.88	492	16
6	マレーシア	545	0.54	92,162	87.71	248	3
7	ミャンマー	1,566	0.63	47,182	21.25	100	5
8	フィリピン	12,364	3.79	3,013,455	1,120.44	1,212	13
9	パプアニューギニア	1,776	2.72	86,923	61.30	97	4
10	スリランカ	346	0.28	522,543	437.24	368	1
11	タイ	2,901	5.56	694,185	458.88	245	5
	*その他の国・地域	9,489	7.67	524,246	256.30	403	27
合計		73,659	46.47	8,295,627	5,041.74	5,756	86

※上記データは 2026 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計

※ その他の国・地域：

アフガニスタン、アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、中国、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム

3. 人材育成事業

総 括

オイスカが研修生の受け入れを開始してから約 60 年が経過し、研修生を取り巻く環境は大きく変化している。出入国在留管理庁の発表によれば、国内の在留外国人数は過去最多となり、2025 年度初めて 400 万人を超えた。そのうち、技能実習生および特定技能外国人の総数も 85 万人を超え、過去最多を更新している。

こうした社会情勢の変化にあっても、オイスカは創立当初から一貫して「国際協力による人づくり」を使命としてきた。日本で習得した技術や規律を各国へ持ち帰り、農村の発展に寄与できる人材の育成を目指している。そのため、国内研修センターでは指導員と研修生が宿舍で寝食を共にする共同生活を重視。農業等の現場技術の習得にとどまらず、帰国後に地域社会でリーダーシップを発揮できる素養の形成に注力している。

昨今の物価高騰や人材確保の難化により、研修センターの運営環境は厳しさを増している。これに対し、本部と現場の連携を強化するとともに、海外から研修生 OB・OG を指導員として招聘するなど、外部リソースを有効活用しながら研修の質の維持と事業の持続可能性の確保に努めている。

2025 年度の一般研修においては、国内 3 拠点（中部、四国、西日本）の研修センターにて、16 の国と地域から計 53 名の研修生を受け入れた。総数は前年度と同数であるが、四国研修センターでは前年度の 5 名から 9 名へと受け入れ数を拡大した。これは、研修内容のさらなる充実とセンター運営の効率化を目的としたものである。

特筆すべき事項として、スリランカ国立青年サービス委員会（NYSC）との連携再開が挙げられる。同委員会からは過去に研修生を受け入れた実績があるものの、近年は交流が中断していた。このたび、現地との協力体制を再構築し、4 名の研修生を受け入れた。

4 名の研修生は各センターに分かれ、多国籍な環境下で実習に励んだ。そのうち 3 名は、生活環境の差異に戸惑いながらも真摯に全課程に取り組み、無事に研修を修了した。帰国後、スリランカの農村開発を担う中核人材として活躍することが期待される。

一方、2025 年度の技能実習生の受入状況においては、本年度の実績では各研修センターを中心にフィリピン、マレーシア、インドネシア、ミャンマー、ベトナムからの新規及び継続受入が合計 5 か国 364 名だった。日本の産業分野における人材不足の影響も反映して人材の受け入れを積極的に進めている企業等からの問い合わせは多くなっている。また、近年では技能実習修了後の特定技能への移行について、実習生及び受入企業側からの希望も多く、毎年増加しており、今年度は 3 カ国 117 名を受け入れた。

技能実習制度は代替制度として育成就労制度に変更されることが決定しており、2027 年 4 月から施行される。これを踏まえ、12 月には各技能実習担当者の勉強会を中部センターで実施し、法人として新制度施行に向けた対応策を随時進めている。なお、育成就労制度が開始されても、施行直前に入国した技能実習生は約 3 年間、技能実習制度の管理下で受け入れられることとなる。

1) 一般研修事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

国別 研修科目	バングラデシュ	カンボジア	フィジー	インド	インドネシア	マレーシア	メキシコ	モンゴル	ミャンマー	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	東ティモール	ウズベキスタン	チベット（インド）	スリランカ	タイ	合計
国際 ボランティア							1										1
農業 一般	1	2	1	4	4	3		2		1	2	3		2	4		29
家政						1	1				3						5
農業 指導						1				3							4
地域 開発			1	1	2	1	1	1		2	1		1		2	1	14
合計	1	2	2	5	6	6	3	3		6	6	3	1	2	6	1	53

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏 名	国 名	科目	期間
中部研修センター(12名)				
1	AMANTE ANGEL HOPE	フィリピン	家政	2023. 8～2025. 8
2	Jacob Francis	PNG	農業指導	2024. 1～2026. 2
3	PADIKOLLY SHYAM SUNDAR	インド	農業一般	2025. 2～
4	LOZANO JAYSON POLLANTE	フィリピン	農業一般	2025. 2～
5	D. M. R. GIHAN SENARATHNA	スリランカ	農業一般	2025. 2～
6	ARIEL PRATAMA LATIEF	インドネシア	農業一般	2025. 2～
7	JOVANHA MERE DATO-ON	フィリピン	家政	2025. 2～
8	Hasan Rakib	バングラデシュ	農業一般	2026. 2～
9	Thandaga Kumaraswamy Punithnagesh	インド	農業一般	2026. 2～
10	Ignatius Yoel	マレーシア	農業一般	2026. 2～
11	Abeysingha Herath Mudiyanseelage Samitha Madushan Abeysinha	スリランカ	農業一般	2026. 2～
12	Sanchez Cortes Stephanie	メキシコ	家政	2026. 2～

四国研修センター(15名)

13	SAUNIVALU RAFAELE	フィジー	地域開発	2025. 2～2025. 12
14	R. M. A. MADUWANTHI RATHNAYAKE	スリランカ	地域開発	2025. 1～2025. 12
15	BAGAPORO GILBERT ANDRES	フィリピン	地域開発	2025. 1～2025. 12
16	NAUFAL MUHAMAD ARYA	インドネシア	地域開発	2025. 1～2025. 12
17	CHOLIFATUN NURUL IMANI	インドネシア	地域開発	2025. 1～2025. 12
18	Jayathilaka Athugalpedige Shashika Dinuwantha	スリランカ	地域開発	2026. 2～
19	Chuluunbaatar Byambatsetseg	モンゴル	地域開発	2026. 2～
20	Chinly Evana Ann	マレーシア	地域開発	2026. 2～
21	Valencia Molina Susana	メキシコ	地域開発	2026. 2～
22	William Kessia	PNG	地域開発	2026. 2～
23	Donald James	PNG	地域開発	2026. 2～
24	Vakkayil Shilpa Shankar	インド	地域開発	2026. 2～
25	Tamakham Vasan	タイ	地域開発	2026. 2～2026. 3
26	Ikmetov Amiljan	ウズベキスタン	地域開発	2026. 2～

27	López Flores Maria Del Pilar	メキシコ	国際協力ボランティア	2026.4～
西日本研修センター(26名)				
28	Jifree Jonathan	マレーシア	農業指導	2024.1～2026.1
29	JAMLAN FADZRINAH GANTI	マレーシア	家政	2025.1～
30	NANDRE MAX	PNG	農業指導	2025.1～
31	K. A. ISHIWARA UTHPALA BANDARA KULASOORIYA	スリランカ	農業一般	2025.1～2026.3
32	THEVAR KANDIYIL AYSHA NASIR	インド	農業一般	2025.1～2026.3
33	GYALTSEN NORBU	チベット	農業一般	2025.2～2026.3
34	SERGIO JUNIOR SISWO XIMENES VALENTINHO	東ティモール	農業一般	2025.1～2026.3
35	ANGEL GLORY PAYAR	マレーシア	農業一般	2025.1～2026.3
36	TAWAKE ASERI	フィジー	農業一般	2025.2～2026.3
37	BAYARSAIKHAN BAYARMAA	モンゴル	農業一般	2025.1～2026.3
38	AHT POOSEN	カンボジア	農業一般	2025.1～2026.3
39	AYUMI HERLAMBANG	インドネシア	農業一般	2025.1～2026.3
40	M. T. M. WIJETHUNGA	スリランカ	農業一般	2025.1～2026.3
41	Christopher George Soka	PNG	農業指導	2026.1～
42	Jeremy Waisale	PNG	農業一般	2026.1～
43	Sugar Erkhembayar	モンゴル	農業一般	2026.1～
44	Misal Cloudia	マレーシア	農業一般	2026.1～
45	Pineda Danica Sumaria	フィリピン	家政	2026.1～
46	Mercado Emmanuel Palara	フィリピン	農業一般	2026.1～
47	Sorn Dasan	カンボジア	農業一般	2026.1～
48	Dos Santos Noe	東ティモール	農業一般	2026.1～
49	Belo Jacqueline	東ティモール	農業一般	2026.1～
50	Hasiholan Anggiat Nadeak	インドネシア	農業一般	2026.2～
51	Connie Francis V. Klara Sitanggang Diaz	インドネシア	農業一般	2026.2～
52	J Dikshetha	インド	農業一般	2026.1～2026.3
53	Chokpa Tenzing	チベット (インド)	農業一般	2026.1～

2) 技能実習事業

① 農業技能

No	氏 名	国 名	期間
耕種農業(施設園芸) 8 名			
1	Mr. Doculan Meljun Viernes	フィリピン	2022.10～2025.10
2	Mr. Deel Bierron Bin Donny	フィリピン	2023.3～2026.3
3	Mr. Calvin Madilis	フィリピン	2023.3～2026.3
4	Ms. Deska Juliana Putri	インドネシア	2023.4.～2026.4
5	Ms. Indah Uswatun Hasanah	インドネシア	2023.9～2026.9
6	Mr. Reyes Rayon De Aro	フィリピン	2023.12～2026.12
7	Ms. Nensy Herlyn Hitipeuw	インドネシア	2025.1～2028.1
8	Ms. Yasmala Dewi	インドネシア	2026.3～2029.3
耕種農業(畑作・野菜) 29 名			
9	Mr. Mohd Fadzili Bin Rahman	マレーシア	2022.4～2025.4
10	Mr. Cayley Josip	マレーシア	2022.4～2025.4
11	Ms. Anne Thien	マレーシア	2022.4～2025.4
12	Ms. Dilaila Donny	マレーシア	2022.4～2025.4
13	Mr. Gaylan Rene Boy Membrano	フィリピン	2022.4～2025.4
14	Mr. Gilboligaya Arnel Arriesgado	フィリピン	2022.4～2025.4
15	Mr. Aquino Mark Anthony Adame	フィリピン	2022.4～2025.4
16	Mr. Ballo Daryl Keitt Laureta	フィリピン	2022.4～2025.4
17	Mr. Sodikin	インドネシア	2022.5～2025.5
18	Mr. Akbar Robi Pradana	インドネシア	2022.5～2027.5
19	Mr. Allen Vanuary De Guzman	フィリピン	2023.5～2026.5
20	Ms. Caballero Elisallen Canete	フィリピン	2023.9～2026.5
21	Mr. Muhamad Hasbi Ashshidieq	インドネシア	2023.9～2026.5
22	Mr. Muhammad Ramadhan Hidayatullah	インドネシア	2023.9～2026.5
23	Mr. Augustine J Apin	マレーシア	2023.9～2026.5
24	Mr. Dioso Joemil Apolinario	フィリピン	2023.10～2026.10
25	Mr. Cepida Edgardo Jr Domingo	フィリピン	2023.10～2026.10
26	Mr. Benigay Ramie Jr Gemoya	フィリピン	2023.10～2026.10
27	Mr. Muhamad Imron	インドネシア	2024.1～2027.1
28	Mr. Jalbuena Arjay Reyes	フィリピン	2024.2～2027.2
29	Mr. Cabriga Dexter Orno	フィリピン	2024.2～2027.2
30	Ms. Thet Thet Lwin	ミャンマー	2024.3～2027.3
31	Mr. Callejo Mark Anthony Silario	フィリピン	2024.4～2026.4
32	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	2024.4～2026.4
33	Mr. Gilboligaya Arnel Arriesgado	フィリピン	2025.11～2027.11
34	Mr. Earl russel hezron arickson gaban	マレーシア	2024.4～2027.4
35	Ms. Nyo thein	ミャンマー	2024.11～2027.11
36	Mr. Addrey Pairin	マレーシア	2025.9～2028.9
37	Mr. Castro Nelvien Pacleb	フィリピン	2025.12～2028.12
耕種農業(果樹) 3 名			
38	Mr. Muhammad Rizki	インドネシア	2023.9～2026.9
39	Mr. M Danda Juliansyah	インドネシア	2023.9～2026.9
40	Mr. Muhamad Ranzi	インドネシア	2024.1～2027.1
畜産農業(養鶏) 1 名			
41	Mr. Diwayan jonar almueda	フィリピン	2024.7～2027.7
畜産農業(養豚) 13 名			

42	Mr. Barreyro Adrian Hunter Millamina	フィリピン	2022.3～2027.6
43	Mr. Barreras Raul Jr. Ballesta	フィリピン	2022.3～2027.6
44	Mr. Magahis Rentz Raniel Cuervo	フィリピン	2022.4～2025.4
45	Mr. Oriasel Arnold Palad	フィリピン	2022.4～2025.4
46	Mr. Ying Hkaw	ミャンマー	2022.5～2025.5
47	Mr. Linn Htet Aung	ミャンマー	2022.5～2025.5
48	Mr. Villastiqui Renand	フィリピン	2022.8～2025.8
49	Mr. Favila Alexis Plurad	フィリピン	2022.8～2025.8
50	Mr. Baula Kliford Bicera	フィリピン	2024.2～2027.2
51	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	2023.6～2025.6
52	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	2023.6～2025.6
53	Mr. Barreras jordan ballesta	フィリピン	2024.7～2027.7
54	Mr. Cortez Jay-Arr Tarinay	フィリピン	2025.12～2029.12
畜産農業(酪農) 6名			
55	Mr. Lahagan Lee Ben Gumulom	フィリピン	2022.3～2025.9
56	Ms. Briosos Andrea Domingo	フィリピン	2022.12～2025.12
57	Ms. Ita Triyanti	インドネシア	2023.7～2026.7
58	Mr. Wangdisan Flobert Reyes	フィリピン	2023.12～2026.12
59	Ms. Diah nur asih	インドネシア	2025.1～2028.1
60	Mr. Bacud Reymon Martinez	フィリピン	2025.6～2028.6

【実習科目及び国別研修生数】

国 別 実習科目	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	合計
耕種農業（施設園芸）	4			4	8
耕種農業（畑作・野菜）	5	7	2	15	29
耕種農業（果樹）	3				3
畜産農業（養鶏）				1	1
畜産農業（養豚）			2	11	13
畜産農業（酪農）	2			4	6
合 計	14	7	4	35	60

② 工業及び介護技能

No	氏 名	国 名	期 間
機械保全 4 名			
61	Mr. Alcoriza Daniel Jonas Nepomuceno	フィリピン	2022.4～2027.4
62	Mr. Muhammad Rasydan Bin Roslan	マレーシア	2023.3～2026.3
63	Mr. Muhammad Na Im Bin Mohd Yasim	マレーシア	2023.3～2026.3
64	Mr. Araneta Martin Joshua Alabado	フィリピン	2025.7～2028.7
建設機械施工 24 名			
65	Mr. Angga Muria Pratama	インドネシア	2022.4～2025.4
66	Mr. Muhammad Faiz Fakhri Bin Zahari	マレーシア	2022.4～2025.4
67	Mr. Darsono	インドネシア	2022.5～2025.5
68	Mr. Rudi Hartono	インドネシア	2022.5～2025.5
69	Mr. Muhammad Haziqurhakim Bin Md Sudarman	マレーシア	2022.5～2025.5
70	Mr. Eksan Saputra	インドネシア	2023.1～2026.1
71	Mr. Cecep Kurniawan	インドネシア	2023.7～2026.7
72	Mr. Taufik Rahmawan	インドネシア	2023.7～2026.7
73	Mr. Muhammad Zafri Bin Mohd Zamri	マレーシア	2023.9～2026.9
74	Mr. Mohamad Afiq Aiman Bin Azemi	マレーシア	2023.9～2026.9
75	Mr. Durahman	インドネシア	2023.10～2026.10
76	Mr. Planas Belmor Jr Nuyda	インドネシア	2023.4～2025.4
77	Mr. Galih Yatna Putra	インドネシア	2023.10～2026.10
78	Mr. Yohandi Rahmat	インドネシア	2023.12～2026.12
79	Mr. Muhamad ripaldi muslim	インドネシア	2024.5～2027.5
80	Mr. Arya maulana rachman	インドネシア	2025.1～2028.1
81	Mr. Fito firmansyah	インドネシア	2025.1～2028.1
82	Mr. Pajar padilah	インドネシア	2025.1～2028.1
83	Mr. Rian harmanda	インドネシア	2025.1～2028.1
84	Mr. Muhammad khalid	インドネシア	2025.2～2028.2
85	Mr. Novel suninggreat	インドネシア	2025.2～2028.2

86	Mr. Alif haiman bin mohd norhasni	マレーシア	2025.3～2028.3
87	Mr. Ahmad Zainuri	インドネシア	2025.6～2028.6
88	Mr. Rendi Surya Saputra	インドネシア	2026.3～2029.3
塗装 7 名			
89	Mr. Garcia Francis Dale Batadlan	フィリピン	2022.4～2025.4
90	Mr. Balbinta Kent Cristian Senador	フィリピン	2022.4～2025.4
91	Mr. De Guzman Bernabe Jr Botanes	フィリピン	2022.12～2027.12
92	Mr. Valera Ryan Billedo	フィリピン	2022.12～2027.12
93	Mr. Amir Muzakkir Bin Mahmood	マレーシア	2025.8～2028.8
94	Mr. Muhamad Nur Hazry Bin Azwar	マレーシア	2025.8～2028.8
95	Mr. Mohammad Aiman Asraf	マレーシア	2025.8～2028.8
冷凍空気調和機器施工 11 名			
96	Mr. Mohamad Syazni Mizan	マレーシア	2022.5～2025.5
97	Mr. Ahmad Syawalluddin Bin Zulkafli	マレーシア	2023.4～2026.4
98	Mr. Mohammad Akmal Bin Mohd Kamil	マレーシア	2023.9～2026.9
99	Mr. Nik Muhammad Fauzan Naim Bin Nor Azan	マレーシア	2023.4～2025.4
100	Mr. Nik Mohamad Syafiq Haikal Bin Nik Al Muhsai	マレーシア	2023.11～2026.11
101	Mr. Mohammad Afiq Bin Mohd Shafie	マレーシア	2023.11～2026.11
102	Mr. Amir hamzah bin nazarudin	マレーシア	2025.3～2025.7
103	Mr. Muhammad Isa Bin Suhairi	マレーシア	2025.7～2028.7
104	Mr. Muhammad Syamim Harith Bin Mohd Sabri	マレーシア	2025.7～2028.7
105	Mr. Muhammad Ikhwan Bin Roseni	マレーシア	2025.12～2028.12
106	Mr. Mohamad Alham Bin Utbah	マレーシア	2026.3～2029.3
溶接 2 名			
107	Mr. Fernandez Aljun Java	フィリピン	2022.3～2027.3
108	Mr. Salbibia Johnnel Pabale	フィリピン	2022.3～2027.3
鉄筋施工 8 名			
109	Mr. Benigay Bryan Pioquinto	フィリピン	2022.3～2027.3
110	Mr. Quirogo Jackson Lanutan	フィリピン	2022.3～2027.3
111	Mr. Ursula Ralph Anthony Caseria	フィリピン	2022.3～2027.3
112	Mr. Acosta Neo Daguno	フィリピン	2022.12～2025.12
113	Mr. Onias Ronel Tilar	フィリピン	2022.12～2027.12
114	Mr. Salcedo Andy Basilio	フィリピン	2022.12～2027.12
115	Mr. Fernandez Nick Jamaybay	フィリピン	2023.5～2026.5
116	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	2023.5～2025.5
117	Mr. Tanjusay christian selebio	フィリピン	2024.10～2027.10
118	Mr. Muhammad shahid bin norasmadi	マレーシア	2025.3～2028.3
119	Mr. Muhammad Nur Aiman Bin Mohd Sani	マレーシア	2022.4～2025.4
120	Mr. Muhammad Zamri Bin Aziz	マレーシア	2022.11～2025.11
121	Mr. Muhammad Ariff Nazmi Bin Ruziham	マレーシア	2025.3～2028.3
122	Mr. Erik Ferely	インドネシア	2025.9～2028.9
123	Mr. Muhammad Nazri Fahmi Bin Johari	マレーシア	2025.12～2028.12
124	Mr. Ahmad Fatoni	インドネシア	2022.5～2025.5
125	Mr. Anton	インドネシア	2022.5～2025.5
126	Mr. Yoga Wahyu Putra	インドネシア	2022.5～2027.5
127	Mr. Maulana Ariel Syaputra	インドネシア	2022.5～2027.5
128	Mr. Moch Salam Azidan	インドネシア	2022.11～2025.11
129	Mr. Nursiddiq Widana Al Faruq	インドネシア	2022.11～2025.11
130	Mr. Hamzah Nurzaman	インドネシア	2022.11～2025.11
131	Mr. Sudianto	インドネシア	2022.11～2025.11
132	Mr. Agi Paturohman	インドネシア	2023.4～2026.4
133	Mr. Bimo Satriyo	インドネシア	2023.4～2026.4
134	Mr. Deni Abdul Gani	インドネシア	2023.4～2026.4
135	Mr. Ikhsan Mukhlis Firmansyah	インドネシア	2023.4～2026.4

136	Mr. Rasyid Saefudin	インドネシア	2023.4～2026.4
137	Mr. Muhamad Althaf Ghani Basyarodi	インドネシア	2024.2～2027.2
138	Mr. Irkam Hariyanto	インドネシア	2024.2～2027.2
139	Mr. Setiyo Aji	インドネシア	2024.2～2027.2
140	Mr. Gibran Sava Raditya	インドネシア	2024.2～2027.2
141	Mr. Aldi fradifta pirmsyah	インドネシア	2025.2～2028.2
142	Mr. Supiyandi	インドネシア	2025.2～2028.2
143	Mr. Rizky kusuma	インドネシア	2025.2～2028.2
144	Mr. Ali Kaka Afrizal	インドネシア	2025.10～2028.10
145	Mr. Anto Aryanto	インドネシア	2025.10～2028.10
146	Mr. Vaqih Albar	インドネシア	2026.3～2029.3
147	Mr. Viki Riwana Khalip	インドネシア	2026.3～2029.3
148	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	2020.11～2026.5
149	Mr. Muhammad Fazelie Bin Namberom	マレーシア	2020.11～2026.5
150	Mr. Andrada Jeff Batolina	フィリピン	2022.4～2025.4
151	Mr. Tolentino Ruel Jr. Benigay	フィリピン	2022.4～2025.4
152	Mr. Muhamad Sazali Bin Salimin	マレーシア	2022.4～2025.4
153	Mr. Muhammad Sharir Bin Muhammad Azim	マレーシア	2022.4～2025.4
154	Mr. Muhammad Zulkifli Bin Adnan	マレーシア	2022.4～2025.4
155	Mr. Muhammad Ariff Danish Bin Muhammad Afandi	マレーシア	2022.4～2025.4
156	Mr. Adam Syahrin Bin Nordin	マレーシア	2022.4～2025.4
157	Mr. Muhammad Ariff Bin Rosli	マレーシア	2022.4～2025.4
158	Mr. Muhammad Solehin Bin Ahmad Zakir	マレーシア	2022.4～2025.4
159	Mr. Radin Muhammad Asyraf Bin Radin Mohd Zulkifli	マレーシア	2022.5～2025.5
160	Mr. Pesquera Christian Dioso	フィリピン	2022.7～2025.7
161	Mr. Lim Sheng Shi	マレーシア	2022.8～2025.8
162	Mr. Mohammad Ashraf Bin Mohammad Wajidi	マレーシア	2022.8～2025.8
163	Mr. Ilias Illyasa Bin Mohd Isa	マレーシア	2022.8～2025.8
164	Mr. Quintos Cristopher Valera	フィリピン	2022.10～2025.10
165	Mr. Ahmad Imran Bin Ibrahim	マレーシア	2023.1～2026.1
166	Mr. Donnathaniel Jules	マレーシア	2023.1～2026.1
167	Mr. Muhammad Nizam Bin Sopri	マレーシア	2023.8～2026.8
168	Mr. Sokhipol Azam Bin Sokhipol Akmam	マレーシア	2023.8～2026.8
169	Mr. Ravin Al Jeyaraman	マレーシア	2023.8～2026.8
170	Mr. Kelvin Chooi Loong Fatt	マレーシア	2023.8～2026.8
171	Mr. Muhammad Affan Amierul Bin Yusriza	マレーシア	2023.9～2026.9
172	Mr. Ahmad Zaki Bin Abdul Latif	マレーシア	2023.9～2026.9
173	Mr. Luqman Nur Hakim Bin Seth	マレーシア	2024.1～2027.1
174	Mr. MUHAMAD AKIF BIN ABDUL MAJAD	マレーシア	2024.1～2027.1
175	Mr. MOHAMAD IRFAN BIN SULAIMAN	マレーシア	2024.1～2027.1
176	Mr. Millare jovanie adres	フィリピン	2024.6～2027.6
177	Mr. Mohd syufian bin siron	マレーシア	2024.8～2027.8
178	Mr. Muhamad bin ghazali	マレーシア	2024.8～2027.8
179	Mr. Muhammad azamuddin bin mohamad mohet	マレーシア	2024.8～2027.8
180	Mr. Muhammad faizmi as shauqi bin naim	マレーシア	2024.8～2027.8
181	Mr. Muhammad zaffri bin muszaffar	マレーシア	2024.9～2027.9
182	Mr. Aidiel danniel bin asfalizainI	マレーシア	2024.9～2027.9
183	Mr. Corugda Christian Javier	フィリピン	2025.4～2028.4
184	Mr. Sevellejo Joey Tablero	フィリピン	2025.4～2028.4
185	Mr. Cerbito Joe Francis Jibala	フィリピン	2025.4～2028.4
186	Mr. Batalon Robin Benosa	フィリピン	2025.6～2028.6
187	Mr. Muhammad Akid Bin Budin	マレーシア	2025.7～2028.7
188	Mr. Mohamad Irfan Bin Mohamad	マレーシア	2025.7～2028.7

189	Mr. Yong Tze Kong	マレーシア	2025.8～2028.8
190	Mr. Muhammad Dannis Lim	マレーシア	2025.8～2028.8
191	Mr. Nileesh A/L Anandan	マレーシア	2025.8～2028.8
192	Mr. Muhammad Amin Bin Mohd Habas	マレーシア	2025.8～2028.8
193	Mr. Sesuca Cedric Jake	フィリピン	2025.8～2028.8
194	Mr. Dela Cruz Jeremy Brian Gonzales	フィリピン	2025.8～2028.8
195	Mr. Arciento Denden Cabarrubias	フィリピン	2025.8～2028.8
196	Mr. Muhammad Irfan Bin Roslan	マレーシア	2025.12～2028.12
197	Mr. Muhammad Syawal Bin Salauddin	マレーシア	2025.12～2028.12
198	Mr. Bayangan Abner Molina	マレーシア	2026.1～2029.1
199	Mr. Ahmad Syakir Bin Fazrol Azri	マレーシア	2026.3～2029.1
200	Mr. Muhammad Nazran Shah Bin Muhammad Shahrizal	マレーシア	2026.3～2029.1
201	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	2020.1～2025.4
202	Ms. Banez Jenniefer Teneza	フィリピン	2020.1～2025.4
203	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	2020.1～2025.5
204	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	2020.1～2025.5
205	Ms. Daowan Edlyn Bernadette Edwin	フィリピン	2022.12～2025.12
206	Ms. Millare Laira Fei Laureta	フィリピン	2022.12～2027.12
207	Ms. Borong Jessa Mae Bisquera	フィリピン	2022.12～2025.12
208	Mr. Elpa Mark Bernos	フィリピン	2023.2～2028.2
209	Mr. Anical Dario Alunday	フィリピン	2023.2～2028.2
210	Mr. Rahmat Ardiansyah	インドネシア	2023.4～2027.4
211	Mr. Randika Sejati	インドネシア	2023.4～2027.4
212	Mr. Gilang Judanto Ibnu Adytiyar	インドネシア	2023.4～2027.4
213	Ms. Benemerito Cristine Joy Bringas	フィリピン	2023.7～2026.7
214	Ms. Callejo Maybelle Silario	フィリピン	2023.7～2028.7
215	Ms. Reyes Julie Ann De Aro	フィリピン	2023.7～2026.3
216	Ms. Bosque Evelyn Balayan	フィリピン	2023.7～2028.7
217	Ms. Montilla Kim Camile Martinez	フィリピン	2023.7～2028.7
218	Ms. Montorio Jessa Ta A	フィリピン	2023.7～2026.7
219	Ms. Fernandez Geralyn Samillano	フィリピン	2023.7～2028.7
220	Ms. Valera paula tarona	フィリピン	2024.6～2027.6
221	Ms. Bacarisa deceree laoagan	フィリピン	2024.6～2027.6
222	Ms. Blaza honey may blanes	フィリピン	2024.6～2027.6
223	Ms. Palos jelly anne osorio	フィリピン	2024.6～2027.6
224	Ms. Casigay lovely may claro	フィリピン	2024.6～2027.6
225	Ms. Viado norshalene bragas	フィリピン	2024.6～2027.6
226	Ms. Tuanquin princess dianne baldemor	フィリピン	2024.6～2027.6
227	Ms. Marquez princes diane cabalbal	フィリピン	2024.6～2027.6
228	Ms. Reyes esperanza alagao	フィリピン	2024.12～2027.12
229	Mr. MATORY AL MUKARROBIN	インドネシア	2025.4～2028.4
230	Mr. RIZKI MAULANA	インドネシア	2025.4～2028.4
231	Mr. IRWAN MAULANA	インドネシア	2025.4～2028.4
232	Ms. BASINGAN JANE FRANCES BRILLANTES	フィリピン	2025.12～2028.12
233	Mr. Bermillo Jeremi John Moscota	フィリピン	2024.2～2027.2
234	Mr. Carrera John Emmanuell Fernandez	フィリピン	2024.2～2027.2
235	Mr. Larisca junilon patriarca	フィリピン	2024.5～2027.5
236	Mr. Alfin Musthofa	インドネシア	2022.5～2025.5
237	Mr. Burhanudin Rahman	インドネシア	2022.5～2027.5
238	Mr. Rahardi Firman Halim	インドネシア	2022.5～2027.7
239	Mr. As Ari	インドネシア	2022.5～2027.7
240	Mr. Ahmad Toha	インドネシア	2022.5～2027.7
241	Mr. Emul Mulyana	インドネシア	2022.11～2027.11
242	Mr. Mahatma Damar Jati Supajar	インドネシア	2022.11～2027.11

243	Mr. Deni Fajri Setiawan	インドネシア	2023.4～2027.4
244	Mr. Rizki Virdaus	インドネシア	2023.4～2027.4
245	Mr. M Zanky Dausti	インドネシア	2023.4～2027.4
246	Mr. Yoga Prayogo	インドネシア	2024.2～2027.2
247	Mr. Rahmawan Hidayat	インドネシア	2024.2～2027.2
248	Mr. Dimas Fajar Ramadhan	インドネシア	2024.2～2027.2
249	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	2023.6～2025.6
250	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	2023.6～2025.6
251	Mr. Ferdinand al jabbar suseno	インドネシア	2024.7～2027.7
252	Mr. Rama yulio	インドネシア	2024.7～2027.7
253	Mr. Syahril ranggadika dwiyanto	インドネシア	2024.10～2027.10
254	Mr. Rendi mauladani	インドネシア	2024.10～2027.10
255	Mr. Akbar jihad	インドネシア	2024.10～2027.10
256	Mr. Aladin jocel bulacan	フィリピン	2024.12～2027.12
257	Mr. Batoon samuel junior belisario	フィリピン	2024.12～2027.12
258	Mr. Sequerra jay jay billedo	フィリピン	2024.12～2027.12
259	Mr. Wahid Subandi	インドネシア	2025.4～2028.4
260	Mr. Zakaria Mahmud Iskandar	インドネシア	2025.4～2028.4
261	Mr. Andika Dwi Kusuma	インドネシア	2025.5～2028.5
262	Mr. Bagas Yoga Gamala	インドネシア	2025.5～2028.5
263	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	2023.6～2025.6
264	Mr. Domingo Mark Hona	フィリピン	2023.5～2026.5
265	Mr. Molina Harold Balagulan	フィリピン	2023.5～2026.5
266	Mr. Barcena Abraham Tailan	フィリピン	2025.6～2028.6
267	Mr. Blase Beejay Pega	フィリピン	2025.6～2028.6
268	Mr. Calpito Kenny Roger Honor	フィリピン	2025.6～2028.6
269	Ms. Sancio Shiena Jagocoy	フィリピン	2023.9～2026.9
270	Ms. Malunes May Erica Correa	フィリピン	2023.9～2026.9
271	Ms. Bongaitan Rose Caino	フィリピン	2025.4～2028.4
272	Ms. Benoyaco Eve Concepcion Dinulung	フィリピン	2022.4～2025.4
273	Ms. Dumandan Alexandra Claudette Santos	フィリピン	2022.4～2025.4
274	Mr. Junas Jasper Junsay	フィリピン	2022.6～2025.6
275	Ms. Venzon Marissa Veniegas	フィリピン	2022.6～2025.6
276	Ms. Campos Christlyn Palmos	フィリピン	2022.6～2025.6
277	Ms. Espenorio Winielyn Atadora	フィリピン	2022.6～2025.6
278	Ms. Javier Jovelyn Montano	フィリピン	2022.6～2025.6
279	Ms. Millan Aiza Gladys Cordova	フィリピン	2022.6～2025.6
280	Mr. Ocura Abe Raph Desuyo	フィリピン	2022.6～2025.6
281	Ms. Villarosa Jeza Sagang	フィリピン	2022.6～2025.6
282	Ms. Cacnio Hazel Dawn Corbeta	フィリピン	2022.6～2025.6
283	Ms. July Lin Lin	ミャンマー	2022.7～2025.7
284	Ms. May Mie Aung	ミャンマー	2022.7～2025.7
285	Ms. Mi Yadana Mon	ミャンマー	2022.7～2025.7
286	Ms. Soe Soe Mon	ミャンマー	2022.7～2025.7
287	Ms. Yin Mon San	ミャンマー	2022.7～2025.7
288	Ms. Khadijah Uswah Mujahida Akbari	インドネシア	2022.7～2025.7
289	Ms. Ghina Septiany Nurul Wahdah	インドネシア	2022.7～2025.7
290	Ms. Nonika	インドネシア	2022.7～2025.7
291	Ms. Puspita Surbakti	インドネシア	2023.4～2026.4
292	Ms. Melisa Simanjuntak	インドネシア	2023.4～2026.4
293	Ms. Wah Wah Aung	ミャンマー	2023.11～2026.11
294	Ms. Thae Mar Htwe	ミャンマー	2023.11～2026.11
295	Ms. Aye Yadanar Moe	ミャンマー	2023.11～2026.11
296	Ms. Du Ay Korine May Ortega	フィリピン	2024.3～2027.3
297	Ms. Ei phyu	ミャンマー	2024.5～2027.5

298	Ms. Hein moh lwin	ミャンマー	2024.5～2027.5
299	Ms. Khin aye	ミャンマー	2024.5～2027.5
300	Ms. Poe ei san	ミャンマー	2024.5～2027.5
301	Ms. Swe swe htet	ミャンマー	2024.5～2027.5
302	Ms. Zin mar phyo	ミャンマー	2024.5～2027.5
303	Ms. Irma yunita dewi	インドネシア	2024.11～2027.11
304	Ms. Ei Phyu Zin	ミャンマー	2025.4～2028.4
305	Ms. Myint Myint Aye	ミャンマー	2025.4～2028.4
306	Ms. Pan Hla	ミャンマー	2025.4～2028.4
307	Ms. Hest Setyo Fambayun	インドネシア	2025.5～2028.5
308	Ms. Ni Ni Htun	ミャンマー	2025.7～2028.7
309	Ms. Khin Thant Zin	ミャンマー	2025.7～2028.7
310	Ms. Thu Zar Htwe	ミャンマー	2025.7～2028.7
311	Ms. Hnin Wutyi Lin	ミャンマー	2025.7～2028.7
312	Ms. Moe Ohnmar Khaing	ミャンマー	2025.7～2028.7
313	Ms. Phyo Thet Khaing	ミャンマー	2025.7～2028.7
314	Ms. Deuis Yuliani	インドネシア	2026.1～2029.1
315	Mr. Mendoza Jomar Rico	フィリピン	2022.3～2027.6
316	Mr. Revilla John Vergel Garganta	フィリピン	2022.3～2027.6
317	Mr. Nguyen Quang Ninh	ベトナム	2022.5～2025.5
318	Mr. Bui Van Tuan	ベトナム	2022.5～2025.5
319	Mr. Nguyen Canh Gioi	ベトナム	2022.5～2025.5
320	Mr. Muhammad Jaini	インドネシア	2022.6～2025.6
321	Mr. Ronaldi	インドネシア	2022.6～2027.6
322	Mr. Wahyudi	インドネシア	2022.6～2025.6
323	Mr. Yazid Al Bastomi	インドネシア	2022.6～2025.6
324	Mr. Zul Fahmi	インドネシア	2022.6～2027.6
325	Mr. Kenzo Lorenzo Da Concencao De Oliveira	インドネシア	2022.6～2027.6
326	Mr. Muhammad Aniq Azim Bin Zazuli	マレーシア	2023.3～2026.3
327	Mr. Muhamad Zaki Azrin Bin Zainudin	マレーシア	2023.3～2026.3
328	Mr. Haddad Alwi Rahmayahya	インドネシア	2023.7～2026.7
329	Mr. Bambang Abdul Syahid	インドネシア	2023.7～2026.7
330	Mr. Agisna Nurhadi	インドネシア	2023.7～2026.7
331	Mr. Alkatri Moh Musairi	インドネシア	2023.7～2026.7
332	Mr. Hoki Darusman	インドネシア	2023.7～2026.7
333	Mr. Muhamad Ikhsanudin Al Maruf Ms	インドネシア	2023.7～2026.7
334	Mr. Raden Jian Al Fajar	インドネシア	2023.10～2026.10
335	Mr. Muhammad Ikhsan Akbar	インドネシア	2023.10～2026.10
336	Mr. M Rifki Nurdin Firdaus	インドネシア	2023.10～2026.10
337	Mr. Anggi	インドネシア	2024.7～2027.7
338	Mr. Isnanda	インドネシア	2024.7～2027.7
339	Mr. Muhammad Aldi	インドネシア	2024.7～2027.7
340	Mr. Muhammad Wahyu Saputra	インドネシア	2024.7～2027.7
341	Mr. Pujiana Amrullah	インドネシア	2024.7～2027.7
342	Mr. Royyan Fahmi Abrori	インドネシア	2024.7～2027.7
343	Mr. Alian Asrofiq Hidayat	インドネシア	2024.10～2027.10
344	Mr. Alfiyan Yusuf Nasrullo	インドネシア	2024.10～2027.10
345	Mr. Bilgera June Paul Claridad	フィリピン	2025.4～2028.4
346	Mr. Pantil Mannyboy Bayudang	フィリピン	2025.4～2028.4
347	Mr. Ahmad Fikriandiansyah	インドネシア	2025.6～2028.6
348	Mr. Israel Fernando Hamonangan Gultom	インドネシア	2025.6～2028.6
349	Mr. Syaifullah	インドネシア	2025.6～2028.6
350	Mr. Pati Rizaldi	インドネシア	2025.7～2028.7
351	Mr. Imam Wahyudi	インドネシア	2025.8～2028.8

352	Mr. Muhammad Rizki Hpd	インドネシア	2025.8～2028.8
353	Mr. Muhamad Rizal	インドネシア	2025.8～2028.8
354	Mr. Agim Mauludin	インドネシア	2026.3～2029.3
355	Mr. Pajriyanto	インドネシア	2026.3～2029.3
356	Mr. Serbito Jester John Talledo	フィリピン	2022.7～2025.7
357	Mr. Bugtong Efren Decena	フィリピン	2022.7～2025.7
358	Mr. Muhammad Syahmi Bin Zakaria	マレーシア	2023.9～2026.9
359	Mr. Ginete Ronel Larry Rosquillo	フィリピン	2023.12～2026.12
360	Mr. Cuarte Klent Cepida	フィリピン	2023.12～2026.12
361	Mr. Valeriano Jelord Sudlon	フィリピン	2023.12～2026.12
362	Mr. Bicara neil john ernes avellaneda	フィリピン	2024.12～2027.12
363	Mr. Mamac mark anthony reyes	フィリピン	2024.12～2027.12
364	Mr. Beneza norfil alcantara	フィリピン	2024.12～2027.12

【実習科目及び国別研修生数】

2) 受託事業

1) 特定技能

No	氏 名	国 名	期間
耕種農業(施設園芸) 2 名			
1	Mr. Preza Zulueto II Talledo	フィリピン	2022. 1～2027. 1
2	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	2022. 1～2027. 1
耕種農業(畑作・野菜) 24 名			
3	Mr. Paborada Noel Jr Bulanon	フィリピン	2022. 12～2027. 12
4	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	2022. 12～2027. 12
5	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	2021. 8～2026. 8
6	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	2023. 7～2028. 7
7	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	2023. 7～2028. 7
8	Mr. Samsul Gay	インドネシア	2023. 9～2028. 9
9	Mr. Abdul Rokhman Rokhim Soleh	インドネシア	2023. 12～2028. 12
10	Mr. Deo Pratiskatama	インドネシア	2023. 12～2028. 12
11	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	2023. 12～2028. 12
12	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	2023. 12～2028. 12
13	Mr. Wardi	インドネシア	2024. 4～2029. 4
14	Mr. Sriyanto	インドネシア	2024. 5～2029. 5
15	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	2024. 5～2029. 5
16	Mr. Silvania Dexter Carbonel	フィリピン	2024. 5～2029. 5
17	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	2024. 9～2025. 9
18	Mr. Maulana Ibrahim	インドネシア	2024. 11～2029. 11
19	Mr. Ade Kosana	インドネシア	2024. 11～2029. 11
20	Mr. Hafiz Maulana Aziz	インドネシア	2025. 4～2030. 4
21	Mr. Callejo Mark Anthony Silario	フィリピン	2025. 5～2030. 5
22	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	2025. 5～2030. 5
23	Mr. Rizki Hidayatulloh	インドネシア	2025. 12～2030. 12
24	Mr. Ocumen Joseph Palara	フィリピン	2026. 2～2031. 2
25	Mr. Aquino Mark Anthony Adame	フィリピン	2025. 4～2030. 4
26	Mr. Ballo Daryl Keitt Laureta	フィリピン	2025. 4～2030. 4
耕種農業(果樹) 3 名			
27	Mr. Heri	インドネシア	2024. 1～2029. 1
28	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	2024. 3～2029. 3
29	Mr. Syafii	インドネシア	2025. 2～2030. 2
畜産農業(養豚) 13 名			
30	Mr. Futosa John Steven Itulid	フィリピン	2023. 5～2028. 5
31	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	2024. 4～2029. 4
32	Mr. Talingdan Narciso Balucas	フィリピン	2024. 7～2029. 7
33	Mr. Sylvester Lewis	マレーシア	2024. 11～2025. 11
34	Mr. Echague Alvin Vincua	フィリピン	2025. 2～2030. 2
35	Mr. Oriel Romeo Jr Akong	フィリピン	2025. 2～2030. 2
36	Mr. Vijar Jonirey Raguin	フィリピン	2025. 6～2030. 6
37	Mr. Dion Kevin Lloyd Gallardo	フィリピン	2025. 8～2030. 8
38	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	2025. 8～2030. 8
39	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	2025. 8～2030. 8
40	Mr. Oriasel Arnold Palad	フィリピン	2025. 9～2030. 9
41	Mr. Favila Alexis Plurad	フィリピン	2025. 12～2030. 12
42	Mr. Landicho Cristopher Ferrer	フィリピン	2026. 2～2030. 2
畜産農業(養鶏) 6 名			
43	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	2023. 2～2025. 4
44	Mr. Tanacio Frodan Ablaza	フィリピン	2023. 3～2028. 3

45	Mr. Telebrico Gelo Barcelo	フィリピン	2023. 3～2028. 3
46	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	2023. 3～2028. 3
47	Mr. De Villa Alvin Magboo	フィリピン	2023. 3～2028. 3
48	Ms. GONZALES GLADYS MANZON	フィリピン	2026. 3～2031. 3
49	Ms. D Susette Semuil	マレーシア	2024. 4～2029. 4
溶接 4名			
50	Mr. Cuizon Reynaldo Jr Yangyang	フィリピン	2022. 1～2027. 1
51	Mr. Dacumos Reycho Villegas	フィリピン	2022. 12～2027. 12
52	Mr. MENOR RUDNER LAURENTE	フィリピン	2025. 11～2030. 11
53	Mr. LOZADA JAKE BACUNA	フィリピン	2025. 11～2030. 11
鉄筋施工 10名			
54	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	2022. 9～2027. 9
55	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	2022. 12～2027. 12
56	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	2022. 10～2027. 10
57	Mr. Domingo Samuel Jr Tadeo	フィリピン	2022. 12～2027. 12
58	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	2023. 7～2028. 7
59	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	2023. 7～2028. 7
60	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	2023. 7～2028. 7
61	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	2023. 7～2025. 9
62	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	2024. 7～2029. 7
63	Mr. Garcia Dickson Silvania	フィリピン	2024. 7～2025. 7
64	Mr. MARMETO NAZIR JASON BARBOSA	フィリピン	2025. 6～2030. 6
65	Mr. SINGUELAS ERIC JOHN FORTUNO	フィリピン	2025. 6～2030. 6
66	Mr. MARMETO NEIL JAMES BARBOSA	フィリピン	2025. 6～2030. 6
67	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	2022. 4～2027. 4
68	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	2023. 3～2028. 3
69	Mr. MOHD ASHRAF BIN IBRAHIM	マレーシア	2024. 7～2029. 7
70	Mr. EKSAN SAPUTRA	インドネシア	2026. 2～2031. 2
71	Mr. MUHAMMAD ANNUAR BIN MOHD SAPUAN	マレーシア	2026. 3～2031. 3
72	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	2024. 7～2029. 7
73	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	2024. 10～2029. 10
74	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	2024. 10～2025. 5
75	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	2024. 11～2029. 11
76	Mr. Hamzah Nurzaman	インドネシア	2025. 12～2030. 12
77	Mr. Sudianto	インドネシア	2025. 12～2030. 12
78	Mr. Muhammad Asyraaf Hamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	2024. 4～2029. 4
79	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	2024. 4～2026. 2
80	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	2023. 4～2028. 4
81	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	2023. 4～2025. 9
82	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	2021. 10～2025. 8
83	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	2022. 5～2027. 5
84	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	2023. 1～2028. 1
85	Mr. MUHAMMAD NAFIS BIN ABDUL AZIZ	マレーシア	2024. 12～2025. 8
86	Mr. Tolentino Ruel Jr. Benigay	フィリピン	2025. 5～2030. 5
87	Mr. Muhammad Zulkifli Bin Adnan	マレーシア	2025. 5～2030. 5
88	Mr. Muhammad Solehin Bin Ahmad Zakir	マレーシア	2025. 6～2030. 6
89	Mr. Radin Muhammad Asyraf Bin Radin Mohd Zulkifli	マレーシア	2025. 7～2030. 7
90	Mr. Pesquera Christian Dioso	フィリピン	2025. 7～2030. 7
91	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	2025. 6～2030. 6
92	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	2025. 6～2030. 6
93	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	2025. 7～2030. 7
94	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	2024. 10～2029. 10

95	Mr. Balbinta Kent Cristian Senador	フィリピン	2025.5～2030.5
96	Mr. NIK MUHAMMAD FAUZAN NAIM BIN NOR AZAN	マレーシア	2025.4～2030.4
97	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	2023.2～2028.2
98	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	2023.2～2028.2
99	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	2024.11～2029.11
100	Mr. Mochamad Dading Mufasil	インドネシア	2023.4～2028.4
101	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	2023.4～2028.4
102	Mr. HADI NUROHIM	インドネシア	2024.4～2029.4
103	Mr. FEBRIANA	インドネシア	2024.4～2029.4
104	Mr. ROHAN HIDAYAT	インドネシア	2024.4～2029.4
105	Mr. ANGGI DENI SUPRIYANTO	インドネシア	2024.4～2029.4
106	Ms. ELSA APRI ANANTI	インドネシア	2024.9～2029.9
107	Ms. DEDE NOVIANTI RISMANTO	インドネシア	2024.12～2029.12
108	Ms. TANUTAN ELLA ENORPE	フィリピン	2024.12～2025.10
109	Ms. JAMALIA SURYANI	インドネシア	2025.2～2026.1
110	Mr. Aristo Januardi Amril	インドネシア	2021.12～2025.2
111	Ms. SUARNABA KELLIE MARIE ALOJADO	フィリピン	2024.5～2029.5
112	Ms. JEREMIA NATALINA SAMOSIR	インドネシア	2024.9～2029.9
113	Ms. MONIKA SIHOMBING	インドネシア	2024.9～2029.9
114	Ms. JUWI YANTI GEOVANI SIAGIAN	インドネシア	2025.1～2030.1
115	Ms. OKTRINA TELEUMBANUA	インドネシア	2025.1～2030.1
116	Ms. Benoyaco Eve Concepcion Dinulung	フィリピン	2025.6～2030.6
117	Ms. Dumandan Alexandra Claudette Santos	フィリピン	2025.6～2030.6

【実習科目及び国別研修生数】

国 別 実習科目	インドネシア	マレーシア	フィリピン	合計
耕種農業（施設園芸）			2	2
耕種農業（畑作・野菜）	10		14	24
耕種農業（果樹）	3			3
畜産農業（養鶏）			6	6
畜産農業（養豚）		1	12	13
畜産農業（酪農）		1		1
溶接			4	4
鉄筋施工			10	10
建設			3	3
建設機械施工	2	3		5
型枠施工		1		1
建具製作	5			5
配管		2		2
自動車整備		5	6	11
鉄工	2			2
防水施工			1	1
塗装			2	2
冷凍空気調和機器施工		1		1
牛豚食肉処理加工業			3	3
飲食品製造業	9		1	10
介護	5		3	8
合 計	36	14	67	117

総 括

2025年度は、全国13支部のうち富山県支部および岐阜県支部が全国に先駆けて創立50周年を迎え、それぞれ記念行事を開催した。長年にわたり各地域に根差した活動を継続してきたことは、当法人の大きな財産であり、2026年11月には静岡県支部も50周年を迎える予定である。他団体と比較しても、国内外で長期間にわたり活動を継続してきたことは当法人の特徴といえる。

一方で、創立40・50・60年を支えた第2期支援者層から、70年・80年をともに支える第3期支援者層を構築できるかどうか、大きな転換期を迎えている。会員のほか、寄附者を含む支援者の年齢構造は依然として逆ピラミッド型であり、個人会員・寄附者ともに平均年齢70歳超の状況が続いている。理想としては全年代にわたりバランスの取れた支援者構成が望ましいが、現状では、特に50歳代の会員・寄附者・理解者層の獲得および若年層への理解促進を最重要課題と位置づけ、長年の弱点である個人対策に取り組んできた。

その成果はまだ限定的ではあるものの、当法人が有する国内外の活動現場や全国13支部をはじめとする各拠点は他団体にはない強みである。現場活動や視察、体験型行事などに熱心に参加した方が、自ら入会・寄附に至る事例も見られるようになった。また、個人・法人ともに10年以上継続して支援いただく割合が高いことも当法人の特徴である。

こうした支援者基盤の拡大に向けた施策の一つとして、継続してきた季節募金は5年目を迎え、新規収入策として定着しつつある。一方、『コンタクトできる友人＝潜在的寄附者』を継続的に増やすため、ダイレクトメール送付先10,000人を目標に掲げているものの、各地区における接触者情報のデータベース入力 of 徹底不足や新規接触者数の伸び悩みもあり、送付先名簿は7,000件程度で横ばいの状況が続いている。

「広報が弱い」「知名度が低い」という課題に対しては、HP更新やSNS活用、オンラインによる活動報告会等の取り組みを継続してきた。SNS等を通じた情報発信により一定の接点維持や認知拡大につながった一方で、広報に係る人的リソースや体制面の課題から、Webサイト更新頻度や発信内容の充実には改善の余地が残っている。また、主要支援者層がSNSを活用しない世代であることから、情報発信のみで支援拡大につなげることには限界もあり、本部・支部・推進協議会を含む役職員一人ひとりによる直接的な働きかけの重要性は依然として高い。

会員数はここ数年減少傾向が続いており、入金ベースで3,496件となった。会員獲得件数も10年前の年平均約300件から100件程度まで低下しており、会員基盤の維持・拡大は引き続き大きな課題である。当法人は研修センターが西日本寄りに配置されていることから、東日本会員数が少ない「西高東低」という構造に加え、個人・法人会員比率はおおむね6:4で推移しており、法人会員の割合が比較的高いことも特徴の一つである。しかし、首都圏および関西圏での会員基盤強化は依然として十分に進んでいない。こうした課題に対応するため、当法人の強みである国内外の現場、全国各地の拠点、長年培ってきた人的ネットワークを活かし、一人でも多くの理解者・支援者の獲得につなげていきたい。

【表1】重要数値サマリー

内容	2024 年度実績	2025 年度目標	2025 年度実績	目標対比
各種活動への参加者数 *	16,367 人	17,000 人	13,211 人	▲3,789
賛助会員数	3,691 件	3,800 件	3,593 件	▲207
入会者数	126 件	150 件	105 件	▲45
退会者数	311 件	200 件	225 件	+25
賛助会員受取会費収入	122,760,000 円	129,071,000 円	118,325,500 円	▲10,709,500 円
年間寄附者数	1,288 件	1,400 件	1,395 件	▲5 件
新規寄附者数	295 件	300 件	258 件	▲42 件
受取寄附金収入（啓発）	68,138,850 円	60,378,000 円	61,668,511 円	+1,290,511 円
保有有効リスト数	6,856 件	10,000 件	7,105 件	▲2,895 件
コンタクト可能件数 （郵送・SNS・YouTube・メルマガ含）	15,949 件	17,000 件	16,675 件	▲325 件

*本部・TC・支部の各種活動への参加者のべ人数

1. 講演会・セミナー等の開催

【オイスカ全国フォーラム】

開催日：令和7年12月4日（木）

会 場：ビジョンセンター品川

参加者：約90名

内 容：国内研修センターでの取材映像の紹介を通じ、海外青年育成を長年積み重ねてきたオイスカの強みや、今後日本の若い世代を巻き込んでいく重要性について理解を深めた。また、本部や研修センター、各支部の活動事例共有を通じ、国内外の現場との連携や支部間の取り組みについて学びを深める機会となった。

【表2】講演会等の行事は以下のとおり。

組織名	事業名	開催日	参加者数	開催場所
北海道支部	第24回オイスカ北海道「子供の森」計画チャリティーコンサート	11月17日	191名	札幌パークホテル（札幌市）
宮城県支部	活動報告会	6月10日	50名	パレスへいあん（仙台市）
首都圏支部 （本部共催）	「オイスカのつどい」	10月15日	110名	国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区）
山梨県支部	甲州市・オルビスの森活用協議会総会	5月21日	18名	甲州市役所
	やまなし水源地ブランド推進協議会令和7年度総会/シンポジウム	6月4日	44名 /52名	恩賜林記念館（甲府市）
	富士山の森づくり推進協議会総会	2月6日	29名	東京農業大学（世田谷区）
	やまなし水源地ブランド推進協議会シンポジウム	2月25日	70名	恩賜林記念館（甲府市）
愛知県支部	2025 オイスカデー	9月20日	200名	安城市民会館
	育成就労制度 勉強会	12月9日	40名	中部日本研修センター
豊田推進協議会	松下幸之助氏に学ぶ経営	11月20日	42名	中部日本研修センター
	樋泉克夫 講演会	12月10日	32名	中部日本研修センター
三重推進協議会	オイスカ活動紹介	5月27日	30名	四日市ナヤプラザ
		12月12日	200名	四日市大学

富山県支部	富山県支部設立 50 周年記念行事、 第 3 回オイスカ中部日本の集い	6 月 13 日	90 名	富山県民会館（富山市）
岐阜県支部	通常総会	6 月 21 日	15 人	大垣フォーラムホテル （大垣市）
	設立 50 周年記念行事	11 月 9 日	150 名	岐阜グラウンドホテル （大垣市）
関西支部	「子供の森」計画親善大使活動報告会	7 月 14 日	54 名	CIVI 北梅田研修センター （大阪市）
四国支部	ウズベキスタン緑化プロジェクト 視察報告	4 月 25 日	40 名	四国研修センター
	子供の森計画・活動	4 月 25 日	40 名	四国研修センター
	四国のつどい講演会	10 月 29 日	200 名	ホテルパールガーデン （高松市）
西日本支部	ワンヘルス講演会	11 月 17 日	200 名	早良高校（福岡市）
	オイスカ福岡県議連活動報告会	12 月 12 日	100 名	福岡県庁



富山県支部 50 記念行事（富山県支部）



設立 50 周年記念行事（岐阜県支部）

2. 資料の作成・配布・インターネットでの情報発信

地球環境の保全をはじめとする公益に資するオイスカの活動の重要性を広く社会に伝えることを目的として、各種資料の作成・配布およびインターネットを活用した情報発信を行っている。これらの取り組みを通じて、環境問題や持続可能な社会づくりへの理解と関心を促し、一人ひとりの意識や行動の変容につなげることを目的としている。また、活動を支える理解者や協力者の輪を広げるため、わかりやすく信頼性のある情報発信の継続に努めている。

（1）個人支援者の維持・拡大

① 潜在支援者の獲得に向けた取り組み

持続的な支援基盤の拡充を図るため、これまで関係のなかった層へのアプローチを強化し、オイスカの活動理念や取り組みに共感し、将来的に支援につながる「潜在的支援者」の獲得を目的として、以下のような施策を実施。

<主な取り組みと進捗>

○交流・参加の機会提供

各種イベントや現地視察ツアー（詳細：表 5、6、7、8）を通じ、オイスカの活動を現場で知ってもらう機会を提供。

○デジタルツールの活用

SNS での定期的な情報発信を継続実施。オンラインイベントを6回実施し、延べ参加者数163名、うち初めての関わりの方が66名と、新規層へのリーチにつながっている。

○啓発資料の活用

オイスカ紹介リーフレットや SNS 案内ハガキの配布を通じ、イベント来場者に活動を伝えるとともに、理解を深めるきっかけづくりを行った。

<成果と今後の課題>

SNS での定期的な情報発信やオンラインイベントの実施、各種イベント・視察ツアー等を通じて、新たな層との接点づくりを継続した。オンラインイベントには延べ163名が参加し、そのうち66名が初めてオイスカと関わる参加者であり、新規層へのアプローチにつながった。

一方で、イベント参加者や接触者情報の支援者管理システムへの登録・活用は依然として十分とはいえず、継続的な関係構築に向けたフォローアップ体制の強化が課題である。また、潜在支援者の関心や属性に応じた情報発信やコミュニケーション施策の充実を図り、将来的な支援につなげていくための具体策を引き続き検討していく。

② 継続寄附者の参加・支援機会の提供

継続して支援いただいている寄附者との信頼関係を維持・強化するため、活動内容の可視化や参加・対話の機会づくりに取り組んだ。これにより、単なる寄附にとどまらず、オイスカの活動に共に関わる仲間としての意識を醸成し、より継続的かつ主体的な支援につなげることを目的としている。

<主な取り組みと進捗>

○年次報告書の送付

年間活動報告書（広報誌「OISCA」9月号）を一定額以上の寄附者に送付し、団体の活動全体への理解を深めていただくとともに、支援がどのように活かされているかを伝えた。

○季節募金の案内

年に2回実施する季節募金を通じ、継続的な支援への参加を呼びかけた。単なる寄附募集にとどまらないよう、前回募金の使途報告として OISCA REPORT を同封し、活動内容への理解促進に努めた。

○報告会・講演会の開催（詳細：表2）

現場の声や活動の成果を直接伝える機会として、報告会や講演会を開催したほか、全国フォーラムを通じ、国内外の現場との連携や支部間の取り組みについて学びを深める機会となった。

<成果と今後の課題>

季節募金のリピート率は57%（前年度寄附者の今年度寄附率）と前年度から微増しており、継続寄附者との関係構築に一定の成果が見られる。

一方で、報告会や講演会等の案内が寄附者に十分に届いていないことから、オンライン・オフライン双方を活用し、継続寄附者に確実に情報を届ける仕組みづくりが課題である。あわせて、寄附者との継続的な接点づくりを通じ、賛助会員への移行も視野に入れた関係強化を図っていく必要がある。

また、現在使用しているメールマガジン配信システムの見直しを進めており、支援者管理システムを活用した配信への移行を進めている。移行完了までは既存システムによる運用を継続していることから、新規登録者の拡大が限定的であるほか、登録解除等により登録者数は減少傾向にある。移行後は効果検証を行いながら、継続寄附者との関係強化および情報発信の充実につなげていく。

③賛助会員の維持と拡大、参加・支援機会の提供

団体理念に共感し継続的に支援いただいている賛助会員の維持・拡大は、安定した事業運営および地域に根ざした活動の継続に不可欠であることから、新規会員の獲得と既存会員との関係深化の両面から取り組みを進めた。

<主な取り組みと進捗>

○支部・研修センターでの行事を活用した新規会員獲得

地域ごとの支部活動や研修センターでの行事において、オイスカの活動に実際に触れる機会を設けた。行事参加を通じて活動への理解と共感が深まり、新規賛助会員の獲得につながるケースも見られた。

○多様なイベントを通じた理解促進（詳細：表5、6、7、8）

国内外での視察ツアーや報告会、講演会等の双方向のコミュニケーションの場を通じて、賛助会員に活動成果を直接伝えるとともに、支援の意義を実感していただく機会となった。

○広報誌「OISCA」の発行による定期的な情報提供

年6回発行の広報誌では、各地の活動レポート等を掲載し、活動の幅広さや成果を伝えるとともに、現場やスタッフをより身近に感じていただく役割を果たした。

<成果と今後の課題>

各種行事や広報活動を通じて、105件の新規賛助会員を獲得した。退会数は225件と前年より減少し、一定の抑制が見られたものの、会員総数は3,593件となり、前年度比で約2.7%減少した。2019年以降、賛助会員数の減少傾向が継続していることから、引き続き内部で課題意識を共有し、解決策を検討・実施していく必要がある。

一方で、全国には会員数を維持または増加させている支部もあることから、支部間の情報共有を密に行い、好事例の横展開を図る。あわせて、既存賛助会員一人ひとりとのつながりをより丁寧に築き、行事参加の促進や継続支援への感謝を伝える機会の充実に努めていく。

【表3】<数値資料>

内 容	2024 年度実績	2025 年度目標	2025 年度実績	目標対比
オンラインイベント参加者数	416 人	450 人	163 人	36%
ホームページユーザー数	139,353 人	145,000 人	85,842 人	59%
ホームページからの入会・寄附者数	入会 26 人 寄附 158 人	入会 30 人 寄附 200 人	入会 23 人 寄附 211 人	入会 76% 寄附 106%
Facebook フォロワー数	3,870	4,000	4,197	105%
X フォロワー数	1,736	1,800	1,736	96%
Instagram フォロワー数	646	700	761	109%
YouTube チャンネル登録者数	1,376	1,500	1,465	97%
YouTube 視聴回数	14,234 回	18,000 回	23,906 回	133%
メールマガジン登録者数	1,465	1,600	1,411	88%
マスメディア露出回数	30 回	30 回	32 回	106%
夏募金 寄附金額 件数	9,792,311 円 402 件	10,000,000 円 440 件	6,406,189 円 372 件	64% 85%
冬募金 寄附金額 件数	8,328,433 円 465 件	10,000,000 円 500 件	10,993,306 円 447 件	110% 89%
クラウドファンディング (ミャンマー地震) 寄附金額	-	5,000,000 円	12,717,399 円	254%

(2) 法人支援者の維持・拡大

会費収入に占める法人会員からの割合はおおむね 6 割を占めており、当法人の安定的な事業運営を支える重要な財政基盤となっている。また、法人会員・法人支援者は財政面のみならず、オイスカの理念や活動を社会に広く発信するパートナーとしても重要な存在である。既存の法人支援者との関係維持・強化を図るとともに、新たな法人支援者との接点創出に向けた情報発信や働きかけを行った。

<主な取り組みと進捗>

日頃のコミュニケーションや活動報告を通じて、既存法人会員との信頼関係の維持を図るとともに、新規支援や支援拡充の可能性について継続的に働きかけを行った。本部主催による法人担当者向けの情報交換会を開催したほか、企業・労働組合の会合において活動報告を行い、活動への理解促進に努めた。また、法人担当者が活動状況を把握しやすいよう、SNS や Web サイトによる情報発信を継続し、オンライン上での情報接触機会の拡充を図った。

<成果と今後の課題>

既存法人会員との関係維持および活動理解の促進に継続して取り組んだものの、新規法人支援者の開拓や支援拡充に向けた人的体制、法人向け提案資料等の整備には引き続き課題がある。今後は、企業・団体ごとの関心やニーズに応じた提案力を高めるとともに、継続的かつ発展的な連携につながる関係構築を進めていく。

(3) 全役職員・全国組織役員（財団・支部・推進協議会）一体となったファンドレイジング

オイスカの全国組織が一体となり、ファンドレイジングへの理解と主体的な関わりを深めていくことは、継続的な支援基盤の構築に不可欠である。そのため、全国フォーラムや各種会議、活動報告等を通じて情報共有を図るとともに、役職員および全国組織役員の意識醸成や現場とのつながりの強化に努めた。

<主な取り組みと進捗>

○組織内での進捗共有と理解の促進

理事会・評議員会・顧問参与懇談会、全国支部・推進協議会の役員会などを通じて、ファンドレイジングに関する現状や課題、進捗状況の共有を行い、全国組織としての共通認識の醸成に努めた。

○職員・支部事務局向け研修機会の提供

全国支部事務局研修会を開催し、各支部における課題や今後の目標、ファンドレイジングに関する現状認識を共有した。あわせて、支部間および本部との横断的な連携強化に向けた意見交換を行い、全国組織としての連携基盤の強化に努めた。

○全国組織との連携

季節募金等の実施にあたり、全国の組織・関係者に対して情報共有や協力依頼を行い、支援拡大に向けた連携を図った。

<成果と今後の課題>

理事会・各種会議や全国支部事務局研修会等を通じて、ファンドレイジングに関する現状や課題、各支部の取り組み状況を共有し、全国組織としての共通認識の醸成に努めた。また、季節募金等において全国組織・関係者へ協力依頼を行い、支援拡大に向けた連携を継続した。

一方で、情報量や施策内容が多岐にわたることから、組織全体における理解度や関わり方には依然と

して差が見られ、各役職員・関係者がより主体的に関わりやすい仕組みづくりが課題である。今後は、好事例や成果の共有を進めるとともに、全国組織全体での一体感醸成と支援基盤強化につなげていく。

(4) 広報

オイスカの活動や理念をより多くの人に届けることは、支援の輪を広げ、持続的なファンドレイジングにつながる重要な基盤である。2025 年度は、SNS や Web サイトを活用した情報発信を継続するとともに、支部との連携も意識しながら広報活動に取り組んだ。一方で、広報に係る人的リソースや体制面には引き続き課題があり、十分な情報発信や企画実施に至らない部分もあった。

<主な取り組みと進捗>

○SNS・メール等を活用した情報発信の継続

SNS やメールマガジン等を活用し、国内外の活動報告やイベント案内、募金情報等の発信を継続した。支援者や関係者に対し、活動状況や参加機会を届けることで、継続的な接点づくりに努めた。

○企業・団体との連携による情報発信

協働事業を実施する企業・団体に対し、社内報やポータルサイト等を通じて当該事業や関連イベント情報を発信いただくよう働きかけを行った。これにより、協働事業の認知向上に加え、企業内外におけるオイスカ活動への理解促進および参加機会の創出につなげた。

○支部・関係者との連携

全国支部や関係者とも情報共有を行いながら、各地域における活動発信やイベント周知に取り組んだ。

<成果と今後の課題>

SNS やメールマガジン等を通じた継続的な情報発信により、支援者や関係者との接点維持に努めたほか、企業・団体との協働事業に関する情報発信を通じて、活動認知の拡大および参加機会の創出につなげた。また、全国支部や関係者との情報共有を行い、各地域におけるイベント周知や活動発信を継続した。

一方で、広報に係る人的リソースや更新体制には引き続き課題があり、Web サイト更新や情報発信の頻度・質の向上には改善の余地がある。今後は、限られた体制の中でも継続的かつ効果的な情報発信が行えるよう、優先順位を整理しながら広報体制の強化に取り組んでいく。

3. 森林整備活動等

森林整備活動等においては、企業と協働し、植栽や間伐など地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を実施している。また、農業ボランティアやゴミゼロデーなどの環境保全活動にも取り組み、地域における環境意識の向上に寄与している。さらに、持続可能な社会の実現を目指し、国産木材の利用促進および森林資源の活用を進めるとともに、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

	2025 年度計画	2025 年度実績
参加人数	3,600 人	3,222 人

【表4】①企業等との協働による森林保全活動

事業名	実施日	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	通年	獣害防止対策ネット補修、鳥類調査など	584名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	3月19日	環境教育プログラム体験、森の散策・視察など	35名	山梨県甲州市
本田技研工業 秩父の森づくり	6月14日	下草刈り、林内整備、丸太切り体験など	61名	埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくりⅡ	4,5月	堆肥用落ち葉集め、林内歩道整備	170名	山梨県山梨市
東急ホテルズ グリーンコインの森	5,11月	間伐見学、農作業、アロマスプレー作り、木の磨きワークショップなど	154名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	12,3月	林地残材の片付け、移植、植栽	72名	山梨県道志村
フォレスターズスクール (中部電力㈱)	1月13日	森林学習、作業体験	17名	中部日本研修センター
よんでんグループ五色の森 づくり活動	11月6日	森林整備	100名	五色台
四万十よんでんの森事業	11月20日	森林整備	80名	四万十よんでんの森

【表5】②全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加者数	活動場所
北海道支部	第3回の北海道生物多様性の保全活動	5月10日	45名	有明地区の厚別川周辺 (札幌市)
	森の保全活動 in えこりん村	6月28日 1月18日	各11名	えこりん村の森 (恵庭市)
	第4回の北海道生物多様性の保全活動	7月5日	60名	有明地区の厚別川周辺 (札幌市)
	野幌森林公園トトロップの森「植樹祭」	10月4日	49名	野幌森林公園・国有林 (江別市)
福島県推進協議会	富士山の森づくり	7月5日	10名	山梨県富士吉田市
	福島県植樹祭	11月5日	9名	福島県田村群小野新町
首都圏支部	豊洲市場「ゴミ0デー」	10月25日	8名	豊洲市場構内
愛知県支部	農業ボランティア	5月24日 6月5日 6月9日 6月14日 6月21日 7月12日 8月9日 9月13日 10月11日 11月8日 12月13日 1月17日	各回 20～90 名程度	中部日本研修センター
豊田推進協議会	富士山の森づくり	7月5日	14名	富士山
	海岸林再生プロジェクト ボランティア	11月10,11日	18名	宮城県名取市
丹羽推進協議会	富士山の森づくり	7月5日	13名	富士山

三重・みよし 推進協議会	海岸林再生ボランティア、 全国育樹祭イベント	10月3,4日	7名	宮城県名取市
富山県支部	緑の里山保全の森づくり活動	5月10日 6月1日 7月26日 9月27日	23名 102名 31名 25名	天林地区 (富山県中新川郡)
広島県支部	オイスカ広島の森づくり活動	5月17日	26名	市吉和県立もみのき森林 公園(廿日市)
	山・林・SUN活動	6月21日	77名	市吉和県立もみのき森林 公園(廿日市)
四国支部	第30回山林SUN尾の瀬山ボラン ティア	11月22日	80名	尾の瀬山
	尾の瀬山 山林SUN	3月17日	20名	尾の瀬山
徳島県推進協議会	徳島まちなか花ロード project 花植えボランティア	9月27日	500名	徳島市藍場浜公園
愛媛県推進協議会	Mt. LOVE1000「オイスカの森」in 愛 媛	8月9,10日	40名	オイスカの森
西日本支部	宝珠山百年の森づくり植林活動	11月23日	50名	東峰村(朝倉郡)



山・林・SUN 活動(広島県支部)



北海道生物多様性の保全活動(北海道支部)



富士山の森づくり(山梨県・首都圏・静岡県・愛知県・四国支部)

4. 各種体験活動

【表6】(1) イベント・交流会への参加、実施

組織名	事業名	開催日	参加者数	場 所
北海道支部	ウズベキスタン総局事務局長一行の受入	10月20,21日	20名	(株)アークス、(株)町村農場、デリシヤス(株)ほか
	台湾総局事務局長一行の受入	12月11～14日	18名	札幌開成中等教育学校
首都圏支部	ふるさと和泉・みんなの夏祭り2025	8月2日	多数	杉並区立和泉学園
	国際協力活動支援「チャリティバザー」	9月20日	100名	東京本部
山梨県支部	地球環境回復型農法による耕作放棄地の活用	4月25日	15名	丹波山村
		6月5日	11名	
		7月9日	9名	
		8月26日	12名	
		10月7日	12名	
		5月3日	7名	早川町
		6月28日	8名	
	南アルプス早川山菜まつり	5月3日	多数	早川町
	水源の森からマルシェ	5月18日	多数	道志村
	MOCTHION ショールームでの展示	6月18日～7月2日	多数	MOCTHION ショールーム
	【能登震災支援】輪島市内 森のつみ木広場	7月24日	70名	もんぜん児童館 鴻巣公民館
	豊市	10月24,26日	多数	「がすてなーに ガスの科学館」特設会場
	令和7年度森林フェスティバル	10月18日	多数	小瀬スポーツ公園
	MORIKATSU	11月16日	多数	塩山ふれあい館
	WOOD コレクション (モクコレ) 2026	2月12,13日	多数	東京ビックサイト
富山県支部	富士山の森づくり 在日大使館関係者受入	7月5日	7名	富士山
	マレーシア政府及びマラ公団関係者「富士山の森づくり」活動地視察	10月16日	13名	富士山
	ウズベキスタン共和国大使甲州市訪問	3月24日	7名	甲州市
	「緑の植林協力隊」2025 スリランカ反省会	11月5日	17名	和食ティファニー
	半田推進協議会	研修生との交流会	7月18日	ステーキハウス森牧場
静岡県支部	国際理事会 海外代表団受入	10月16,17日	32名	スズキ博物館、静岡グランヒルズ
豊田推進協議会	モルディブ大使受け入れ	4月18日	7名	ストロベリーファーム、光岡会長宅
岐阜県支部	「子供の森」計画コーディネーター受入れ	11月17,18日	9名	モノリス下呂市役所
関西支部	「子供の森」計画親善大使受入れ	7月13～15日	7名	豊能町立吉川小学校、コニカミノルタ労組ほか
	ワン・ワールド・フェスティバル	2月7,8日	多数	梅田スカイビル
	大阪マラソン 2026	2月22日	多数	大阪市内

広島県支部	役員交流会	11月26, 27日	20名	広島市内
	四国・中部日本研修センター研修生の広島研修受入れ	11月26, 27日	27名	広島平和記念資料館、エディオンピースウィング、宮島ほか
四国支部	マレーシア KPD 日本視察受入れ	4月18～21日	3名	技能実習生受入施設ほか
	陶小学校・滝宮小学校受入れ見学	5月2日	80名	四国研修センター
	高松北中学校 2年生との交流授業	6月27日～7月3日	90名	四国研修センター
	どろんこ田植えフェスティバル	6月28日	50名	綾川町内水田
	「子供の森」計画親善大使受入れ	7月7～11日	7名	香川県内小中学校、森林関連施設ほか
	オイスカ夏のつどい	8月6日	80名	四国研修センター
綾川推進協議会	やまだ夏祭り	7月26日	500名	綾川町山田公民館
	綾川町盆踊り	8月2日	500名	綾川町立陶小学校
	オイスカ交流実行委員交流会	10月25日	40名	四国研修センター
高松推進協議会	香川国際フェスタ 2025	10月13日	200名	アイパル香川
	第30回高松秋のまつり・仏生山大名行列	5月18, 19日	多数	仏生山公園
香川東推進協議会	造田小学校国際交流	10月27日	40名	造田小学校
中讃推進協議会	クリスマスランチ会	11月30日	30名	オークラホテル丸亀
	丸亀お城まつり	5月3, 4日	多数	丸亀城周辺
西日本支部	体験農園茶摘み	5月17日	20名	西日本研修センター
	博多どんたく西新	5月3日	多数	西新会場
	田植え大会	5月31日 6月3日 6月5日 6月7日	各100～200名	研修センター圃場
	地球体験村	7月25, 26日	30名	西日本研修センター
	サマーナイトフェスティバル	7月26日	1500名	福岡県立早良高校
	稲刈り大会	9月27日 10月1日	各100～200名	研修センター圃場
	芋掘り交流会	10月21, 22日 10月27日 10月30日 10月31日 11月10日 11月22日	100名 30名 40名 20名 35名 40名	研修センター圃場
	収穫感謝祭	11月8日	2000名	西日本研修センター
	もちつき大会	11月15日 12月19日 12月20日 12月26日 12月26日 12月28, 29日	200名 60名 100名 200名 200名 30名	脇山小学校 ピノキオこども園 西日本研修センター ひなた村自然塾 若竹保育園 ワッキー主基の里
	オイスカ高校交流会	12月5日	150名	西日本研修センター
	福岡農業高校交流会	12月12日	40名	福岡県立福岡農業高校
	早良高校交流会	12月18日	30名	福岡県立早良高校
	鹿本農業高校交流会	1月22日	40名	西日本研修センター
朝倉市推進協議会	産業視察	10月17日	30名	朝倉市内
佐賀県推進協議会	料理教室	11月29日	15名	佐賀商工ビル



中部・四国研修センター視察受入（広島県支部）



「子供の森」親善大使受入れ（関西支部）

【表 7】（2）海外現場視察・ツアー開催

組織名	期 間	人数	訪 問 先
山梨県支部	9 月 17 日～9 月 24 日	9 名	フィジー共和国 ビチレブ島
富山県支部	8 月 19 日～8 月 24 日	22 名	スリランカ
静岡県支部	7 月 19 日～7 月 26 日	12 名	モンゴル
関西支部	8 月 23 日～8 月 30 日	17 名	フィリピン アブラ州・南イロコス州
広島県支部	8 月 23 日～8 月 30 日	6 名	フィリピン アブラ州
西日本支部	8 月 19 日～8 月 24 日	12 名	インドネシア ジャワ島
	8 月 3 日～8 月 8 日	13 名	マレーシア サバ州
福島県推進協議会	5 月 25 日～5 月 30 日	2 名	モルディブ
	9 月 1 日～9 月 6 日	6 名	フィリピン 西ネグロス州
	2 月 5 日～2 月 14 日	2 名	マレーシア アランカウェイ
	2 月 27 日～3 月 6 日	4 名	ウズベキスタン
茨城推進協議会	9 月 30 日～10 月 5 日	2 名	フィリピン 西ネグロス州
	2 月 15 日～2 月 28 日	10 名	フィリピン 西ネグロス州
	3 月 16 日～3 月 22 日	2 名	フィリピン 西ネグロス州



スリランカ緑の植林協力隊（富山県支部）



フィリピン西ネグロス州（福島県推進協議会）



フィリピン西ネグロス州訪問（茨城推進協議会）



フィリピン植林フォーラム（広島県支部）

（3）森のつみ木広場、木育事業

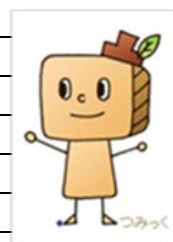
国産材のつみ木や木製玩具を活用した木育事業を実施し、子どもたちが木に親しみ、森の大切さを学ぶ機会を提供した。「つみ木広場」では、森林や木材に関する解説からつみ木遊びへと展開し、親子で環境について学ぶ場となっている。令和7年度は全国の支部等で60回以上開催し、木育の普及に寄与した。

さらに、これまでの実績を踏まえ、森林環境譲与税の活用を通じた自治体への導入促進や、地域において木育事業を継続的に実施できる仕組みづくりを進めるとともに、大人を対象とした「木育スクール」を実施し、木材の特性や森林資源の循環、ワークショップ運営手法等の理解促進及び人材育成に取り組んでいる。

【表8】森のつみ木広場、木育事業

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
北海道支部	12月11日	札幌市元町北小学校 第57回森のつみ木広場
首都圏支部	10月17日	中央区立中央幼稚園 森のつみ木広場
山梨県支部	5月26日	湯田小学校 甲府市放課後子供教室湯田あげひばり子ども教室
	5月31日	鳴沢村保育所 森のつみ木広場
	6月7日	阿久和保育園・阿久和キッズ合同 森のつみ木広場・木育ひろば
	6月17日	国母小学校 甲府市放課後子供教室国母おひさま放課後子ども教室
	6月21日	西柴保育園 森のつみ木広場
	6月27日	甲運小学校 森のつみ木広場
	7月10日	東雲保育園 森のつみ木広場
	7月28日	泉保育園 森のつみ木広場
	7月28日	松里保育所 森のつみ木広場
	7月29日	大和保育所 森のつみ木広場
	7月29日	みいづ保育園 森のつみ木広場
	7月30日	たんぼぼこども園 森のつみ木広場
	7月31日	岩崎保育園 森のつみ木広場
	7月31日	奥野田保育園 森のつみ木広場
	8月4日	塩山愛育園 森のつみ木広場
	8月5日	千野保育園 森のつみ木広場
	8月6日	赤尾保育園 森のつみ木広場
	8月8～8月10日	ぬくもりの森キポキポ 木育キャラバン in 富士吉田
	8月29日	塩山カトリック幼稚園 森のつみ木広場
	10月17日	中央幼稚園（首都圏支部共催）
	11月7,8日	よっちゃばれ広場 山梨県障害者芸術・文化祭
	11月16日	塩山ふれあい館 甲州市木育ひろば（同時開催：MORIKATSU）

	12月9日	新紺屋小学校 甲府市放課後子供教室 新紺屋わくわく子供教室
	1月17日	葛飾区立花の木小学校 森のつみ木広場
	1月20日	英和プレストンこども園 森のつみ木ひろば
	2月28, 3月1日	山梨県立科学館 木育キャラバン in 科学館 森のつみ木広場
	3月26日	いすゞ自動車の木育による横浜市放課後事業PR イベント
	5月29日	甲運小学校 環境教育活動への協力
	5月31日	オルビスの森 神金小学校 オルビスの森環境学習
	6月12日	富士山の森づくり活動地 環境教育活動への協力
	6月26日	やまなし地域づくり交流センター OISCA 木育スクール
	7月30日	やまなし地域づくり交流センター 木のおもちゃ体験会
	8月2日	山梨市市民会館 第25回子どもフェスティバル木育ひろば
	8月30日	健康の杜センターアネシス 甲府市保育士会実技研修会
	9月25日	八日市場保育園 木育ひろば
	9月26日	後屋敷保育園 木育ひろば
	10月18日	UTY 本社 UTY エコフェス 2025
	11月23日	朝日通りえびす講祭り木育ひろば
	12月6日	山梨県 PTA 大会木育ひろば
	3月15日	県央ネットやまなしプラスチック・スマート・キャンペーン
	3月20日	南品川2丁目児童遊園 KIDS WONDER STREET
安城推進協議会	2月15日	安城市アンフォーレ 森のつみ木広場
丹羽推進協議会	5月12日	大口町立南保育園 森のつみ木広場
	6月24日	扶桑町立斉藤保育園 森のつみ木広場
	7月2日	大口町立北保育園 森のつみ木広場
	9月19日	大口町立中保育園 森のつみ木広場
	10月22日	扶桑町立栢森南保育園 森のつみ木広場
	11月4日	大口町立西保育園 森のつみ木広場
	12月22日	扶桑町立高雄保育園 森のつみ木広場
三重推進協議会	11月11日	黒田小学校 森のつみ木広場
	11月11日	朝陽中学校 森のつみ木広場
	11月12日, 12月17日	保々こども園 森のつみ木広場
四国支部	7月27日	サンメッセ 森のつみ木広場
	7月29日	古高松放課後児童クラブ 森のつみ木広場
	8月4日	高松友の家 森のつみ木広場
	8月5日	牟礼放課後児童クラブ 森のつみ木広場
	8月7日	陶なかよし学級 森のつみ木広場
西日本支部	8月21日	三筑小学校留守家庭ホール つみ木広場



三筑小学校留守家庭ホール つみ木広場（西日本支部）



大和保育所 森のつみ木広場（山梨県支部）

5. 東日本大震災復興支援事業

【 海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画（2021-2030） 】

震災から15年が経過した現在も、防災機能の高い海岸林の再生と、地域に認知・理解され、親しまれる海岸防災林づくりを目指して事業を継続している。2025年度は、プロ455人、ボランティア1,360人の参加のもと、葛の葉剤枯殺、外来種（ニセアカシア等）の除伐、排水路の修復・新設、本数調整伐（間伐）、作業道の維持管理、生長モニタリング、本数調整伐に向けた調査、マツクイムシ被害防止対策、巡視、各種啓発活動等を実施した。事業費については、当期寄附金およびこれまで積み立ててきた特定費用準備資金を活用し、継続的に事業を実施している。

海岸防災林における本数調整伐を事業規模で実施する取り組みは全国でも先進的な事例とされており、東北の被災海岸林の中でも早期かつ計画的に進めている。「1伐2残」（33%伐採、汀線に平行して2列残し1列伐採）の方法により、2026年度に2019・2020年度植栽地5.75haの本数調整伐を予定しており、これにより全植栽地における1回目の間伐完了を見込んでいる。伐採木は宮城県の指導のもと、堆肥、チップ、木質ペレット燃料、バイオマス発電等へ100%再利用している。

なお、2025年3月にはクロマツに甚大な被害をもたらすマツ材線虫病が隣接市町および空港関連施設において確認され、2025年度には事業地内においても被害が確認された。被害拡大防止に向け、被害木の伐倒・破碎処理や無人ヘリによる薬剤散布等の対応を進めている。

【啓発普及活動 累計実績】

*活動報告会・講演会	317回・45,937人（23都道府県）
*日本人視察者	4,114人（外国人視察者 64カ国・298人含む）
*写真パネル展	93回
*国内メディア等紹介	330回
*HPブログ更新	2,924回更新（震災から15年間）
*寄附金募集パンフレット配布数	約29万枚
*寄附者数	2,220人（オイスカ会員3割）
*支援総額	10億円（うち積立金 約3億円）

【実績総括表】

（2026.3.31現在）

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	累計	
育苗	播種数	-	97,500	72,500	87,250	89,856	96,400	57,000	45,800	3,000	3,000	-					552,306	粒
	発芽率	-	95	91	94	94	91	96	95	87	93	-					93.3	%
植栽	面積	-	-	-	15.67	10.06	11.00	13.66	16.32	2.00	3.75	-					72.46	ha
	本数	-	-	-	80,182	55,084	56,037	71,945	81,600	6,000	19,350	-					370,198	本
	活着率	-	-	-	98.4	98.0	98.3	99.8	99.8	100.0	100	-					99.2	%
	間伐											10.13	22.78	25.97	16.21	-	66.84	ha
	総雇用数	-	187	507	1,221	985	1,109	1,309	1,164	814	620	1,148	675	675	569	455	11,436	人
市民	市民参加	-	-	262	1,365	1,691	1,800	2,096	2,273	1,892	270	313	1,194	1,194	1,223	1,360	16,607	人
	視察人数	263	580	837	567	577	183	231	148	73	14	72	103	103	53	51	4,114	人
	報告会	523	4,772	5,900	4,692	4,996	3,893	5,911	4,178	3,347	1392	3,633	480	480	944	735	45,937	人
	報告会	4	43	28	30	30	26	30	22	24	11	22	11	11	11	15	317	回
	メディア	24	39	27	33	38	20	23	21	7	36	22	8	8	3	14	330	回



名取市海岸林 全長 5 km 全景 左：北端より中央・右：中央より南端を望む（2025 年 5 月撮影）

6. 国際会議の開催

① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和 7 年 10 月 15 日（水）

場 所：国立青少年オリンピックセンター

出席者：13 カ国・地域 72 名

内 容：各総局から農業開発、植林活動、「子供の森」計画等の近況報告が行われたほか、オイスカインターナショナルのネットワークを活用し、社会貢献型ビジネスの振興や持続可能な地域づくりを目指す「アジア・環太平洋戦略的パートナーシップ」について意見交換がなされた。

② 東京フォーラム（国際協力活動推進意見交換会）

開催日：令和 8 年 2 月 26 日（木）

場 所：衆議院第一議員会館 国際会議室

出席者：10 カ国 12 名

内 容：アジア・太平洋地域 10 カ国の大使および大使館関係者、外務省関係者を迎え開催した意見交換会。オイスカから、各国での農業・環境保全活動や人材育成の成果、国内の森林再生活動などを紹介し、国際ネットワークを活用したさらなる連携強化と活動発展への意欲を示した。各国代表からは活動への評価と今後への期待が述べられた。

5. 収益事業

総 括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の50%を公益目的事業に資した。

1. 不動産等の賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m²

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

(2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m² (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

(3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m²

貸与先：株式会社ディアローク

※普通賃貸契約

(4) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件：オイスカハウス永福町駐輪場 4.00 m²

貸与先：（株）ループ

※Port設置保管場所契約

2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m²

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

6. 組織の運営

令和7年度においては評議員会を2回、理事会を4回開催し、健全な運営に努めた。
会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 評議員会

①令和7年度定時評議員会

日時：令和7年6月20日(金) 12:30～14:00

場所：衆議院第二議員会館 地下1階 第8会議室

議題：

第1号議案：令和6年度事業報告・決算書類(案)について

第2号議案：任期満了に伴う理事の選任(案)について

報告事項

- ・令和7年度事業計画・予算について
- ・令和8年度特定資産等の資金運用状況

②令和7年度臨時評議員会（書面審議）

日時：令和8年3月25日(水)

議題：

第1号議案：定款の一部変更(案)について

- ① 第4条（事業）1 公益目的事業（3）
- ② 第11条（事業報告及び決算）（4）及び（5）
- ③ 第14条（会計原則等）3

(2) 理事会

①令和7年度第1回理事会

日時：令和7年6月5日(木) 12:15～14:00

場所：衆議院第二議員会館 地下1階 第9会議室

議題：

第1号議案：令和6年度事業報告・決算書類（案）及び監査報告

第2号議案：令和6年度新規賛助会員の承認（案）について

第3号議案：令和6年度国際協力活動推進基金明細書について

第4号議案：任期満了に伴う理事候補の推薦（案）について

第5号議案：顧問及び参与の委嘱(案)について

第6号議案：令和7年度定時評議員会の開催（案）について

報告事項

- ・令和6年度特定資産運用状況について
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告

②令和7年度第2回理事会（書面審議）

日時：令和7年6月25日(水)

議題：

第1号議案：次期の代表理事（理事長、副理事長）及び業務執行理事
（専務理事、常務理事）の互選（案）について

- ① 理事長 中野 悦子（代表理事、重任）
- ② 副理事長 廣瀬 道男（代表理事、重任）
- ③ 専務理事 永石 安明（業務執行理事、重任）
- ④ 常務理事 森田 章（業務執行理事、重任）

③令和7年度第3回理事会

日時：令和7年12月18日(木) 12:30～14:00

場所：衆議院第二議員会館 地下1階 第10会議室

議題：

第1号議案：令和6年度決算貸借対照表内訳表の一部修正（案）に
ついて

第2号議案：令和8年度事業計画及び予算編成方針（案）について

第3号議案：参与の委嘱（案）について

報告事項

- ・代表理事、業務執行理事の業務報告

④令和7年度第4回理事会

日時：令和8年3月12日(木) 12:30～14:00

場所：参議院議員会館 1階 第102号会議室

議題：

第1号議案：7年度補正予算(案)について

第2号議案：令和8年度事業計画・予算(案)について

- ① 特定寄附金の募集に関わる募金目論見書概要(案)
- ② 特定資産の取崩し・積立計画(案)
- ③ 借入金限度額の設定(案)
- ④ 資産運用方針及び計画(案)
- ⑤ 資金調達及び設備投資の見込みについて(案)
- ⑥ 事業の内容(公益目的事業の種類及び内容、収益事業の内容)
(案)

第3号議案：定款の一部変更（案）について

第4号議案：規程の一部改正（案）について

（別紙）公益充実資金等取扱規程（案）

第5号議案：令和7年度臨時評議員会（書面）の開催(案)について

第6号議案：顧問の委嘱（案）について

第7号議案：令和8年度定時評議員会の開催(案)について

2. 役員

令和8年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学特別顧問

(1) 評議員

No.	氏 名	役 職
1	赤 阪 清 隆	(公財) ニッポンドットコム理事長
2	岡 田 康 男	弁護士
3	神 野 重 行	三重産業(株)代表取締役
4	佐 伯 勇 人	四国電力(株)特別顧問
5	佐 藤 百 合	アジア経済研究所名誉研究員
6	篠 塚 徹	拓殖大学名誉教授
7	進 士 五十八	東京農業大学名誉教授・元学長
8	中 村 利 雄	(公財)全国中小企業振興機関協会会長
9	ペマ・ギャルボ	岐阜女子大学南アジア研究センター長
10	マリ クリスティーン	東京女子大学現代教養学部客員教授
11	森 本 英 香	早稲田大学法学部教授、元環境事務次官

(2) 代表理事

No.	氏 名	役 職
1	中 野 悦 子	理事長
2	廣 瀬 道 男	副理事長

(3) 業務執行理事

No.	氏 名	役 職
1	永 石 安 明	専務理事
2	森 田 章	常務理事

(4) 理事

No.	氏 名	役 職
1	泉 雅 文	四国支部会長、JR 四国元会長
2	瓜 生 道 明	西日本支部会長、九州電力(株)前代表取締役会長
3	榎 原 美 樹	映像ジャーナリスト、元 NHK 記者
4	大 野 泉	政策研究大学大学院名誉教授
5	樋 泉 克 夫	愛知県立大学名誉教授
6	光 岡 保 之	愛知県支部会長、元豊田市議会議長
7	湧 井 敏 雄	首都圏支部会長、元神奈川経済同友会専務理事

(5) 監事

No.	氏 名	役 職
1	神 山 敏 夫	税理士・公認会計士
2	梶 川 幹 夫	明治安田生命保険相互会社顧問

〈50 音順〉

(6) 顧問

No.	氏 名	役 職
1	荒 木 光 弥	国際開発ジャーナル社編集主幹
2	石 井 淑 雄	(株)石井代表取締役会長
3	逢 見 直 人	(公財) 富士社会教育センター理事長
4	太 田 猛 彦	東京大学名誉教授
5	荻 田 知 英	中国電力(株) 特別顧問
6	小 林 健	日本商工会議所会頭
7	篠 沢 恭 助	(公財)資本市場研究会顧問
8	新 木 富 士 雄	北陸電力(株)名誉顧問
9	筒 井 義 信	(一社)日本経済団体連合会会長
10	廣 野 良 吉	成蹊大学名誉教授
11	榊 本 晃 章	前(一財)日本原子力文化財団理事長
12	松 尾 新 吾	九州電力(株)元会長
13	山 口 明 夫	(公社)経済同友会代表幹事

(7) 参与

No.	氏 名	役 職
1	上 村 良 成	関西支部会長、JR 連合会長
2	岡 本 知 之	(学)中野学園オイスカ浜松国際高校校長
3	小 川 信 也	岐阜県支部会長
4	落 合 偉 洲	静岡県支部会長
5	梶 谷 辰 哉	SGEC/PEFC ジャパン専務理事
6	亀 井 文 行	宮城県支部会長
7	木 島 正 芳	元東京入国管理局長
8	久 和 進	富山県支部会長
9	黒 柳 俊 之	元(独)国際協力機構理事
10	小 林 泉	大阪学院大学国際学部教授
11	清 水 光 朗	長野県支部会長
12	杉 下 恒 夫	(一財)国際開発機構理事長
13	棚 田 健 司	広島県支部会長
14	永 島 智 子	UA ゼンセン会長
15	中 村 茂 樹	(公財)SOMPO 環境財団専務理事
16	中 村 陽 子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
17	壬 生 守 也	電力総連会長
18	宮 島 雅 展	山梨県支部会長
19	宮 嶋 嘉 則	CELCO JAPAN 特別顧問
20	宮 原 美 智 子	くまもと未来創造基金プログラムオフィサー
21	山 下 雅 子	社会保険労務士
22	横 山 清	北海道支部会長

〈50 音順、令和 8 年 3 月 31 日現在〉

(1) 機構図



令和8年3月31日現在における本法人職員(パート職員含む)は次のとおりである。

52

令和7年4月1日～令和8年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額														
会員の動向		会費入金額(千円)												
		期首会員数		合計 件数	期末会員数		期首と期末 の増減数		令和6年度入金額		令和7年度入金額		前年度との 差額	前年比
		合計 件数	法人 個人		合計 件数	法人 個人	法人 個人	法人 個人	法人 個人	法人 個人				

附属明細書

令和 8 年 3 月

公益財団法人オイスカ

なお、令和 7 年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。